

鳥取県がん検診実績報告書

平成24年 3 月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

はじめに

平成20年4月、県が策定した「鳥取県がん対策推進計画」は、平成24年度までの5カ年の全体目標として、国と同様に「がんによる75歳未満の死亡率20%」減少を掲げ、早期発見のため各がん検診の受診率を50%まで引き上げることとしています。

厚生労働省が発表した平成22年度全国がん検診実績報告によると、全国1,696市区町村のうち、がん検診受診率50%以上の市区町村は、「胃がん」28、「肺がん」179、「大腸がん」52、「子宮がん」110、「乳がん」86でありました。「胃がん」と「肺がん」は平成21年度に比べ少し減少し、それ以外の検診は前年度を上回っています。

鳥取県の受診率は、「胃がん」では全国平均9.6%に比べ23%とかなり上回り、他部位のがん検診においても良い成績ではありますが、目標の50%達成には難しい状況です。

更に、平成23年12月、国立がん研究センターが発表した平成22年「がん75歳未満年齢調整死亡率(10万人対)」によると、鳥取県は全国ワースト2位でありました。

死亡率の年次推移は全国平均、鳥取県とも減少傾向にありますが、鳥取県は全国平均より高く推移しており、部位別でみると、男性では肺がんや胃がんが多く、女性では大腸がんが多く、また乳がんは、全国平均は大きな変動はないが、鳥取県は平成13年の6.9%に比べ、平成22年は14.5%と倍増しています。肝及び肝内胆管がんも高かったという結果です。

また、平成22年に行った「国民健康・栄養調査」によると、県民の喫煙率は全国第3位と高く、1日の歩数は全国に比べかなり少なく、運動の習慣のある人の割合も全国平均を下回り、1日当たりの野菜摂取量も少ないという調査結果が出ており、これらのことから一次予防を含め、総合的な検証を行っていく必要があると考えます。

この報告を受けた「鳥取県がん対策県民会議」は、平成24年に『がん対策推進評価専門部会』を設置し、全国に比べがん死亡率が高い要因の究明や今後取るべき有効な対策について検討を開始しました。

健対協においても、がん検診の部位別の要精検率、精検受診率、がん発見率等のプロセス指標による評価等を通して、早急に検診の質、精度管理の盲点の検討を行い、原因の解明と対策を進めていくことが重要であり、このことが、県民の健康対策を担う健対協の役割と考えます。

平成24年3月

鳥取県健康対策協議会

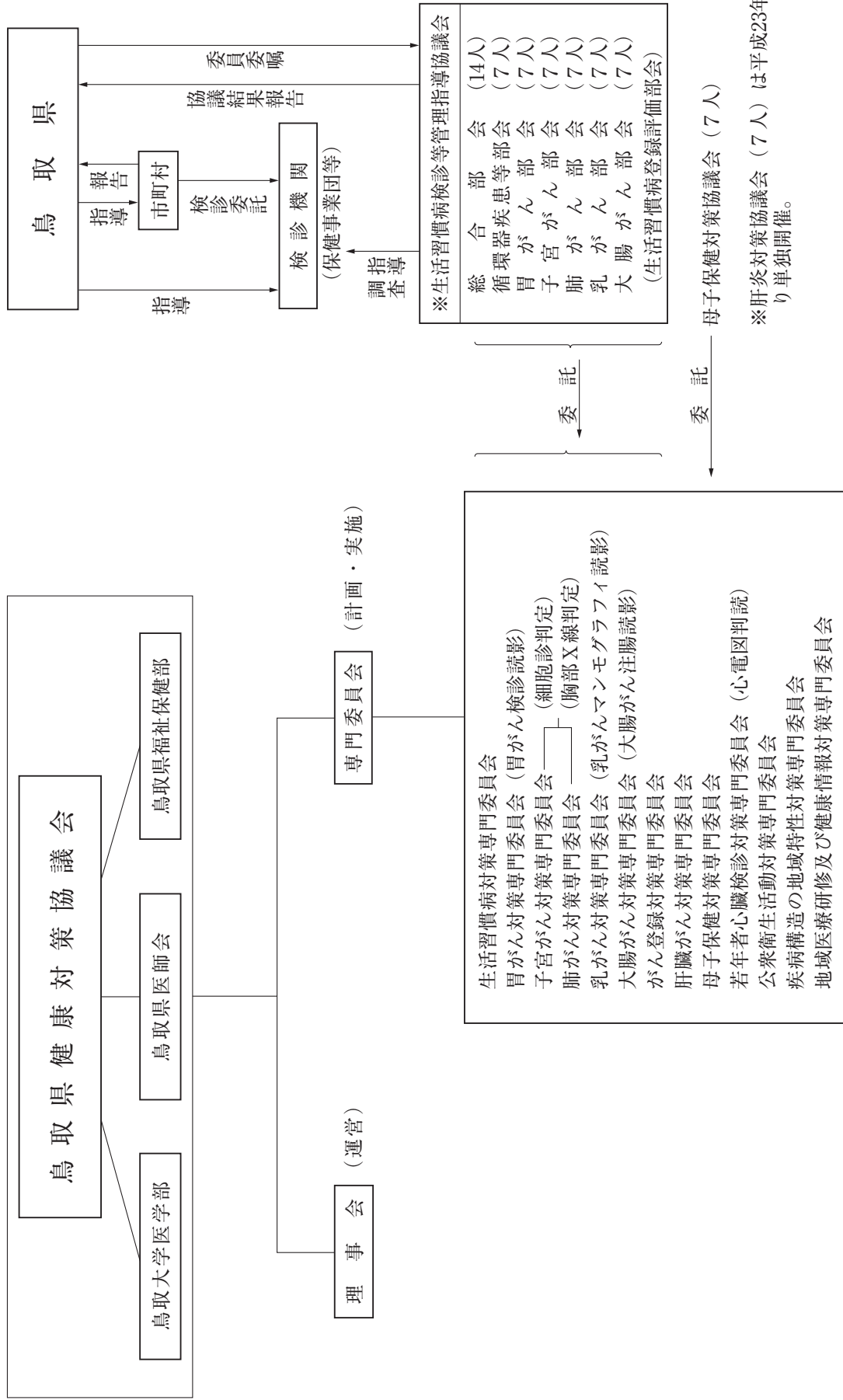
会長 岡本公男

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成22年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	16
3. 肺がん検診	24
4. 乳がん検診	37
5. 大腸がん検診	45
6. 肝臓がん検診	54
7. 全国がん検診実績との比較	66
III. 平成23年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	72
2. 子宮がん検診症例研究会報告	74
3. 肺がん検診症例研究会報告	75
4. 乳がん検診症例研究会報告	78
5. 大腸がん検診症例研究会報告	79
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	81
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	84
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	85

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ. 平成22年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \quad \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \quad \boxed{\text{人}} \quad \boxed{\text{口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \quad \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

- (1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者
- (2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：精密検査受診者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 が ん 検 診

1. 胃がん検診実績

対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）は188,186人のうち、受診者数はX線検査16,082人、内視鏡検査は27,214人で合計43,296人、受診率は23.0%で前年度に比べ微増であった。受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は62.9%で、年々増加している。

検査の結果、胃がんであった者は142人発見され（X線検査23人、内視鏡検査119人）、がん発見率は0.33%であった。平成21年度全国平均がん発見率0.16%に比べ高い。例年と同様な傾向である。

X線検査でのがん発見率は0.14%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.44%で約3倍も高い。

陽性反応適中度（がん/精検受診率）はX線検査2.2%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ6.0%であった。

確定調査の結果、確定癌は138例、発見癌率は0.32%であった。

- (1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は16,082人で、受診率は8.5%で年々減少傾向である。一次検診の要精検者は1,259人で、要精検率は7.8%。このうち、精密検査を受診したのは1,049人、精検受診率は83.3%であった。集団検診の要精検率6.5%、医療機関検診は12.3%で、依然として中部が27.8%と非常に高いことが課題である。撮影手技のスキルアップ、読影体制の改善を図る必要がある。

精検結果は、胃がんであった者は23人で、胃がん発見率は0.14%であった。

- (2) 内視鏡検査は、16市町村で実施され、受診者数は27,214人で、検査結果は胃がんであった者は119人が発見され、発見率は0.44%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数1,994人で、組織診実施率7.3%で、市町村ごとで実施率がばらついており、地域格差がある。

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

胃がん取扱規約の2010年3月改訂版が出されたことに伴い、平成22年度確定調査より「検診発見胃がん患者個人票」様式の変更を行った。その結果、壁深達度、リンパ節転移等が変更となった。

平成22年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃がんは138例（一次検査がX線検査：車検診16例、施設検診6例、一次検査内視鏡検査：116例）であった。発見癌率は0.319%であった。

調査結果は以下のとおりである。

- (1) 早期癌は110例、進行癌は28例であった。早期癌率は79.7%で、東部86.8%、中部75.0%、西部72.0%であった。
- (2) 切除例は132例で、そのうち内視鏡切除が56例で全体の約42.4%を占め、増えている。非切除例が6例で、手術拒否1例、手術不能5例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性90例、女性48例であった。80歳以上が全体の26.1%を占めている。
- (4) 早期癌では「IIc」が49.1%で大半を占めている。進行癌では「1」、「2」で46.4%を占めている。また、分類不能の「5」が7例あり、全体の25.0%も占めた。
- (5) 切除例の深達度では「t1」が105例で、そのうちt1aが73例であった。
- (6) 切除例の大きさは2cm以内が43.2%であった。車検診では42.9%、施設検診では50.0%、内視鏡検査では42.9%で、小さいものが多く見つかっている。

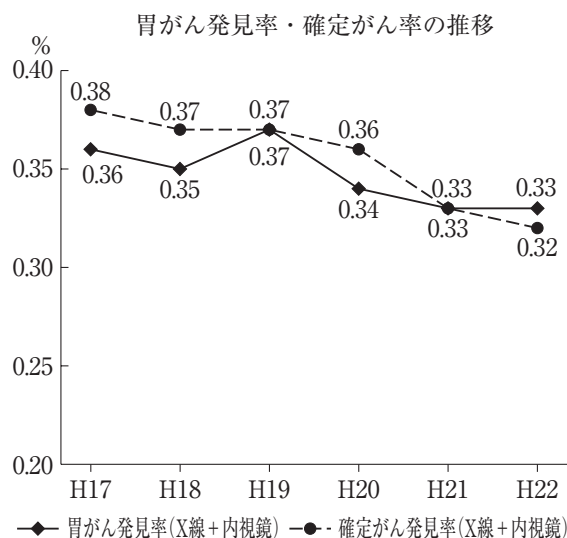
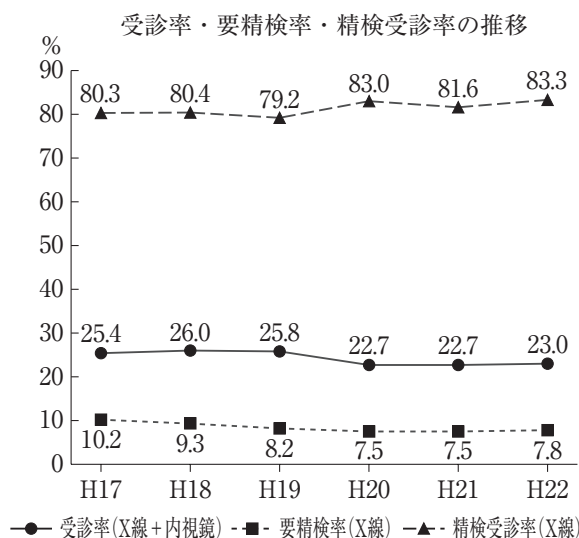
- (7) 早期癌の占拠部位では小弯が多くなっている。内視鏡検査ではX線検査では見つかりにくい、前壁が多くなっている。
- (8) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage I aが16例で72.7%、内視鏡検査ではstage I aが86例で76.1%、stage I bが9例で7.9%であった。
- (9) 前年度受診歴を有する進行癌は、東部4件、中部2件、西部3件であった。
内視鏡検診が開始され約10年経過し、早期癌が多く発見され、内視鏡切除も増えている。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		17 年 度			18 年 度			19 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			177,428			174,051			171,530
	受 診 者 数(人) B	25,784	19,339	45,123	23,247	21,945	45,192	20,507	23,765	44,272
	受 診 率(%) C = B/A	14.5	10.9	25.4	13.4	12.6	26.0	12.0	13.9	25.8
一次検診結 果	異 常 認 め ず(人) D	23,156			21,085			18,818		
	要 精 検 者 数(人) E	2,628			2,162			1,689		
	要 精 検 率(%) F = E/B	10.2			9.3			8.2		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,109			1,738			1,337		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	80.3			80.4			79.2		
精密検査結 果	胃 が ん の 者(人) I	53(7)	109(38)	162(45)	46(11)	112(32)	158(43)	35(6)	131(31)	166(37)
	胃 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.21	0.56	0.36	0.20	0.51	0.35	0.17	0.55	0.37
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	2.5			2.6			2.6		
確定調査結 果	確 定 が ん 数(人) L	53	117	170	49	117	166	36	126	162
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.21	0.6	0.38	0.21	0.53	0.37	0.18	0.53	0.37

区 分		20 年 度			21 年 度			22 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			188,186			188,186			188,186
	受 診 者 数(人) B	18,099	24,700	42,799	17,352	25,449	42,801	16,082	27,214	43,296
	受 診 率(%) C = B/A	9.6	13.1	22.7	9.2	13.5	22.7	8.5	14.5	23.0
一次検診結 果	異 常 認 め ず(人) D	16,736			16,052			14,823		
	要 精 検 者 数(人) E	1,363			1,300			1,259		
	要 精 検 率(%) F = E/B	7.5			7.5			7.8		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,131			1,061			1,049		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	83.0			81.6			83.3		
精密検査結 果	胃 が ん の 者(人) I	31(5)	113(44)	144(49)	29(6)	114(35)	143(41)	23(2)	119(35)	142(37)
	胃 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.17	0.46	0.34	0.17	0.45	0.33	0.14	0.44	0.33
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	2.7			2.7			2.2		
確定調査結 果	確 定 が ん 数(人) L	31	122	153	28	113	141	22	116	138
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.17	0.49	0.36	0.16	0.44	0.33	0.14	0.43	0.32

- ※ 1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※ 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※ 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者を分母として算出
- ※ 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成22年度胃がんX線検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数(人)		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a			要精検者数 d		異常認めず		e = d/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,115	4,207	255	463	12.1	11.0	11.4	17	20	238	443	6.7	4.3	5.2
45～49歳	2,560	4,460	210	486	8.2	10.9	9.9	13	19	197	467	6.2	3.9	4.6
50～54歳	3,635	6,518	256	739	7.0	11.3	9.8	17	41	239	698	6.6	5.5	5.8
55～59歳	5,170	9,630	485	1,033	9.4	10.7	10.3	36	67	449	966	7.4	6.5	6.8
60～64歳	8,313	12,735	1,088	1,946	13.1	15.3	14.4	103	115	985	1,831	9.5	5.9	7.2
65～69歳	10,826	15,529	1,149	1,581	10.6	10.2	10.4	118	104	1,031	1,477	10.3	6.6	8.1
70～74歳	12,955	18,248	1,156	1,643	8.9	9.0	9.0	136	116	1,020	1,527	11.8	7.1	9.0
75～79歳	11,885	18,165	877	1,307	7.4	7.2	7.3	91	106	786	1,201	10.4	8.1	9.0
80歳以上	12,051	29,184	658	750	5.5	2.6	3.4	74	66	584	684	11.2	8.8	9.9
計	69,510	118,676	6,134	9,948	8.8	8.4	8.5	605	654	5,529	9,294	9.9	6.6	7.8
合 計	188,186		16,082		8.5			1,259		14,823		7.8		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数(人)		精密検査受診率 (%)			精密検査結果								胃がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f/d			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん h		i = h/b			j = h/f		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	10	18	58.8	90.0	75.7	3	5	7	13	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	11	18	84.6	94.7	90.6	2	6	9	12	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	11	35	64.7	85.4	79.3	2	9	9	25	0	0	0	1	0.000	0.135	0.101	0.0	2.9	2.2
55～59歳	27	59	75.0	88.1	83.5	10	14	16	43	0	0	1	2	0.206	0.194	0.198	3.7	3.4	3.5
60～64歳	73	99	70.9	86.1	78.9	15	20	55	79	1	0	2	0	0.184	0.000	0.066	2.7	0.0	1.2
65～69歳	99	92	83.9	88.5	86.0	22	16	73	74	0	1	4	1	0.348	0.063	0.183	4.0	1.1	2.6
70～74歳	111	103	81.6	88.8	84.9	20	28	88	75	0	0	3	0	0.260	0.000	0.107	2.7	0.0	1.4
75～79歳	77	93	84.6	87.7	86.3	10	18	64	74	0	0	3	1	0.342	0.077	0.183	3.9	1.1	2.4
80歳以上	56	57	75.7	86.4	80.7	15	7	39	47	0	0	2	3	0.304	0.400	0.355	3.6	5.3	4.4
計	475	574	78.5	87.8	83.3	99	123	360	442	1	1	15	8	0.245	0.080	0.143	3.2	1.4	2.2
合 計	1,049		83.3			222		802		2		23		0.143			2.2		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

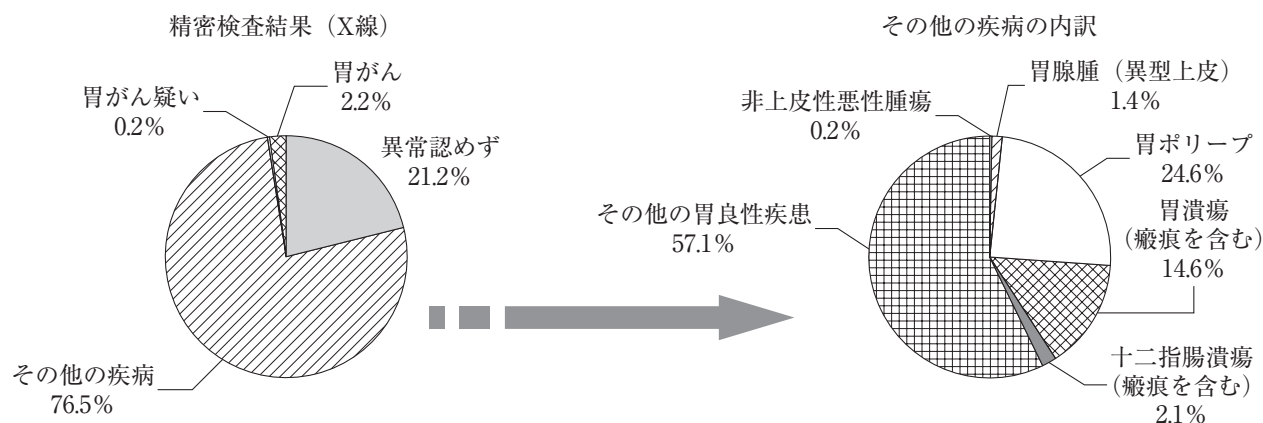
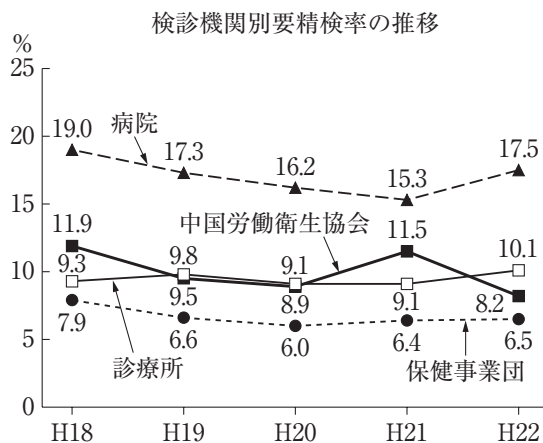
一次検診機関	一次検診受診者数 (人)		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	4,675	7,494	382	408	4,293	7,086	8.2	5.4	6.5
中国労働衛生協会	124	157	16	7	108	150	12.9	4.5	8.2
病 院	369	708	86	103	283	605	23.3	14.5	17.5
診 療 所	966	1,589	121	136	845	1,453	12.5	8.6	10.1
計	6,134	9,948	605	654	5,529	9,294	9.9	6.6	7.8
合 計	16,082		1,259		14,823		7.8		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人)		精密検査受診率(%)			精密検査結果								胃がん発見率(%)			陽性反応適中度(%)		
	d'		e' = d'/b'			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がんf'		g' = f'/a'			h' = f'/d'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	299	365	78.3	89.5	84.1	73	77	215	283	1	0	10	5	0.214	0.067	0.123	3.3	1.4	2.3
中国労働衛生協会	12	6	75.0	85.7	78.3	5	3	5	3	0	0	2	0	1.613	0.000	0.712	16.7	0.0	11.1
集団検診小計	311	371	78.1	89.4	83.9	78	80	220	286	1	0	12	5	0.250	0.065	0.137	3.9	1.3	2.5
病院	66	86	76.7	83.5	80.4	8	21	56	65	0	0	2	0	0.542	0.000	0.186	3.0	0.0	1.3
診療所	98	117	81.0	86.0	83.7	13	22	84	91	0	1	1	3	0.104	0.189	0.157	1.0	2.6	1.9
医療機関検診小計	164	203	79.2	84.9	82.3	21	43	140	156	0	1	3	3	0.225	0.131	0.165	1.8	1.5	1.6
計	475	574	78.5	87.8	83.3	99	123	360	442	1	1	15	8	0.245	0.080	0.143	3.2	1.4	2.2
合計	1,049		83.3			222		802		2		23		0.143			2.2		

検診機関別要精検率の推移(%)

一次検診機関	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
保健事業団	7.9	6.6	6.0	6.4	6.5
中国労働衛生協会	11.9	9.5	8.9	11.5	8.2
集団検診小計	8.0	6.6	6.1	6.5	6.5
病院	19.0	17.3	16.2	15.3	17.5
診療所	9.3	9.8	9.1	9.1	10.1
医療機関検診小計	11.8	11.9	11.3	10.7	12.3
合計	9.3	8.2	7.5	7.5	7.8



4) 平成22年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数			要精検者数					精密検査結果別人員							
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	計	施設検診	車検診	施設検診	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J
鳥取市	56,203	1,869	1,750	3,619	6.4	379	241	138	379	10.5	308	81.3	43	258	0	7	265	0.193	2.3	
米子市	41,718	693	1,311	2,004	4.8	164	127	37	164	8.2	138	84.1	33	102	0	3	105	0.150	2.2	
倉吉市	17,326	1,207	67	1,274	7.4	109	16	93	109	8.6	90	82.6	17	69	1	3	73	0.235	3.3	
境港市	10,887	64	204	268	2.5	27	22	5	27	10.1	26	96.3	4	21	1	0	22	0.000	0.0	
岩美町	4,781	699	15	714	14.9	54	10	44	54	7.6	51	94.4	4	45	0	2	47	0.280	3.9	
八頭町	6,612	1,440	56	1,496	22.6	111	3	108	111	7.4	86	77.5	23	62	0	1	63	0.067	1.2	
若桜町	1,864	302	0	302	16.2	17	0	17	17	5.6	14	82.4	2	12	0	0	12	0.000	0.0	
智頭町	3,343	244	140	384	11.5	27	11	16	27	7.0	27	100.0	2	23	0	2	25	0.521	7.4	
湯梨浜町	5,856	597	16	613	10.5	36	5	31	36	5.9	30	83.3	8	22	0	0	22	0.000	0.0	
三朝町	2,750	436	0	436	15.9	30	0	30	30	6.9	21	70.0	6	15	0	0	15	0.000	0.0	
北栄町	5,699	822	11	833	14.6	59	6	53	59	7.1	51	86.4	15	35	0	1	36	0.120	2.0	
琴浦町	7,298	1,127	3	1,130	15.5	74	0	74	74	6.5	64	86.5	28	35	0	1	36	0.088	1.6	
南部町	4,188	435	59	494	11.8	25	5	20	25	5.1	23	92.0	2	21	0	0	21	0.000	0.0	
伯耆町	4,502	786	0	786	17.5	37	0	37	37	4.7	27	73.0	12	15	0	0	15	0.000	0.0	
日吉津村	897	213	0	213	23.7	4	0	4	4	1.9	3	75.0	0	3	0	0	3	0.000	0.0	
大山町	7,684	560	0	560	7.3	32	0	32	32	5.7	26	81.3	8	18	0	0	18	0.000	0.0	
日南町	3,182	402	0	402	12.6	29	0	29	29	7.2	25	86.2	3	22	0	0	22	0.000	0.0	
日野町	1,843	305	0	305	16.5	25	0	25	25	8.2	23	92.0	4	18	0	1	19	0.328	4.3	
江府町	1,553	249	0	249	16.0	20	0	20	20	8.0	16	80.0	8	6	0	2	8	0.803	12.5	
合計	188,186	12,450	3,632	16,082	8.5	1,259	446	813	1,259	7.8	1,049	83.3	222	802	2	23	827	0.143	2.2	
東部	72,803	4,554	1,961	6,515	8.9	588	265	323	588	9.0	486	82.7	74	400	0	12	412	0.184	2.5	
中部	38,929	4,189	97	4,286	11.0	308	27	281	308	7.2	256	83.1	74	176	1	5	182	0.117	2.0	
西部	76,454	3,707	1,574	5,281	6.9	363	154	209	363	6.9	307	84.6	74	226	1	6	233	0.114	2.0	

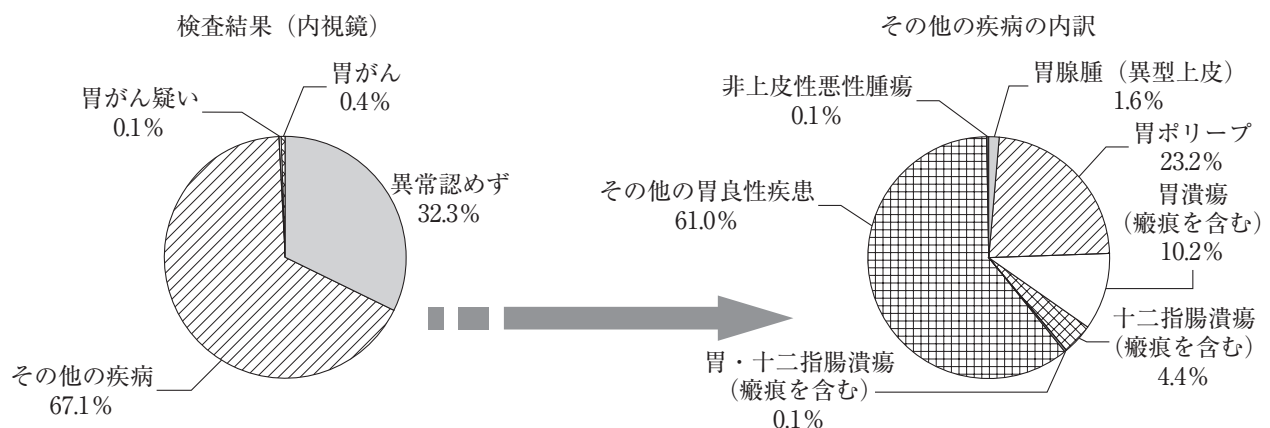
(3) 平成22年度胃がん内視鏡検診結果

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数(人) a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c = b / a		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	214	462	89	207	124	255	0	0	1	0	0.467	0.000	0.148
45～49歳	224	567	82	216	142	348	0	3	0	0	0.000	0.000	0.000
50～54歳	322	738	92	265	229	472	0	1	1	0	0.311	0.000	0.094
55～59歳	558	1,201	168	430	388	770	0	1	2	0	0.358	0.000	0.114
60～64歳	1,546	2,787	421	945	1,112	1,835	3	2	10	5	0.647	0.179	0.346
65～69歳	2,077	2,942	594	1,010	1,466	1,925	5	0	12	7	0.578	0.238	0.379
70～74歳	2,177	3,160	572	1,080	1,586	2,066	1	4	18	10	0.827	0.316	0.525
75～79歳	1,793	2,607	546	878	1,229	1,719	2	2	16	8	0.892	0.307	0.545
80歳以上	1,538	2,301	460	731	1,051	1,557	7	4	20	9	1.300	0.391	0.755
計	10,449	16,765	3,024	5,762	7,327	10,947	18	17	80	39	0.766	0.233	0.437
合 計	27,214		8,786		18,274		35		119		0.437		

2) 検診機関別

一次検診機関	一次検診 受診者数(人) a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c' = b' / a'		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	2,940	4,190	473	814	2,442	3,362	6	7	19	7	0.646	0.167	0.365
診療所	7,509	12,575	2,551	4,948	4,885	7,585	12	10	61	32	0.812	0.254	0.463
計	10,449	16,765	3,024	5,762	7,327	10,947	18	17	80	39	0.766	0.233	0.437
合計	27,214		8,786		18,274		35		119		0.437		



3) 平成22年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	検査結果別人員									
	受診者数 (人) A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	異常 認めず D	その他 の疾病 E	がん 疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	がん 発見率 (%) I = G/A	陽性反応 適中度 (%) J = G/B
鳥取市	10,268	997	9.7	1,877	8,313	20	58	8,391	0.565	5.8
米子市	9,653	423	4.4	3,921	5,692	6	34	5,732	0.352	8.0
倉吉市	1,046	115	11.0	538	502	1	5	508	0.478	4.3
境港市	2,119	144	6.8	964	1,147	2	6	1,155	0.283	4.2
岩美町	251	41	16.3	10	240	0	1	241	0.398	2.4
八頭町	356	22	6.2	49	305	0	2	307	0.562	9.1
若桜町	12	0	0.0	4	8	0	0	8	0.000	0.0
智頭町	332	16	4.8	23	307	0	2	309	0.602	12.5
湯梨浜町	731	104	14.2	386	340	3	2	345	0.274	1.9
三朝町	85	1	1.2	56	29	0	0	29	0.000	0.0
北栄町	258	33	12.8	132	123	1	2	126	0.775	6.1
琴浦町	625	39	6.2	335	286	1	3	290	0.480	7.7
南部町	818	37	4.5	134	680	1	3	684	0.367	8.1
伯耆町	199	0	0.0	195	4	0	0	4	0.000	0.0
日吉津村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大山町	241	12	5.0	39	202	0	0	202	0.000	0.0
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
江府町	220	10	4.5	123	96	0	1	97	0.455	10.0
合計	27,214	1,994	7.3	8,786	18,274	35	119	18,428	0.437	6.0
東部	11,219	1,076	9.6	1,963	9,173	20	63	9,256	0.562	5.9
中部	2,745	292	10.6	1,447	1,280	6	12	1,298	0.437	4.1
西部	13,250	626	4.7	5,376	7,821	9	44	7,874	0.332	7.0

(4) 平成22年度胃がん検診受診状況 (X線十内視鏡)

市町村名	対象者数 (人) A	受診者数				X線精密検査結果および内視鏡検査結果別人員					
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J=G+H+I	がん発見率 (%) K=I/D
鳥取市	56,203	3,619	10,268	13,887	24.7	1,920	8,571	20	65	8,656	0.468
米子市	41,718	2,004	9,653	11,657	27.9	3,954	5,794	6	37	5,837	0.317
倉吉市	17,326	1,274	1,046	2,320	13.4	555	571	2	8	581	0.345
境港市	10,887	268	2,119	2,387	21.9	968	1,168	3	6	1,177	0.251
岩美町	4,781	714	251	965	20.2	14	285	0	3	288	0.311
八頭町	6,612	1,496	356	1,852	28.0	72	367	0	3	370	0.162
若桜町	1,864	302	12	314	16.8	6	20	0	0	20	0.000
智頭町	3,343	384	332	716	21.4	25	330	0	4	334	0.559
湯梨浜町	5,856	613	731	1,344	23.0	394	362	3	2	367	0.149
三朝町	2,750	436	85	521	18.9	62	44	0	0	44	0.000
北栄町	5,699	833	258	1,091	19.1	147	158	1	3	162	0.275
琴浦町	7,298	1,130	625	1,755	24.0	363	321	1	4	326	0.228
南部町	4,188	494	818	1,312	31.3	136	701	1	3	705	0.229
伯耆町	4,502	786	199	985	21.9	207	19	0	0	19	0.000
日吉津村	897	213	0	213	23.7	0	3	0	0	3	0.000
大山町	7,684	560	241	801	10.4	47	220	0	0	220	0.000
日南町	3,182	402	0	402	12.6	3	22	0	0	22	0.000
日野町	1,843	305	0	305	16.5	4	18	0	1	19	0.328
江府町	1,553	249	220	469	30.2	131	102	0	3	105	0.640
合計	188,186	16,082	27,214	43,296	23.0	9,008	19,076	37	142	19,255	0.328
東部	72,803	6,515	11,219	17,734	24.4	2,037	9,573	20	75	9,668	0.423
中部	38,929	4,286	2,745	7,031	18.1	1,521	1,456	7	17	1,480	0.242
西部	76,454	5,281	13,250	18,531	24.2	5,450	8,047	10	50	8,107	0.270

(5) 平成22年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確定胃癌数	8	3	57	5	0	15	3	3	44	138
癌発見率%	0.176	0.153	0.508	0.119	0.000	0.546	0.081	0.191	0.332	
	68 0.383			20 0.284			50 0.270			0.319
早期癌数	6	3	50	3	0	12	3	2	31	110
早期癌率%	59 86.8			15 75.0			36 72.0			
進行癌数	2	0	7	2	0	3	0	1	13	28
切除例	7	3	55	4	0	15	3	2	43	132
内視鏡切除例	2	1	30	1	0	6	2	1	13	56
非切除例	1	0	2	1	0	0	0	1	1	6

手術拒否：1 手術不能：5

表2 性・年齢別

	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	2	3	28	35	22	90
女	0	3	14	17	14	48

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	1	1	2	0	0	3	1	0	4	12	10.9%
IIa	0	0	10	1	0	2	0	0	5	18	16.4%
IIc	3	0	26	1	0	5	1	1	17	54	49.1%
IIc+III	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1.8%
IIa+IIc	1	0	8	0	0	1	1	1	4	16	14.5%
その他	1	1	3	1	0	1	0	0	1	8	7.3%
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	6	3	50	3	0	12	3	2	31	110	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3	10.7%
2	1	0	3	0	0	0	0	1	5	10	35.7%
3	0	0	2	0	0	0	0	0	4	6	21.4%
4	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	7.1%
5	1	0	1	0	0	1	0	0	4	7	25.0%
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	2	0	7	2	0	3	0	1	13	28	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検診	車検診	施設検診	内視鏡 検診	車検診	施設検診	内視鏡 検診		
t1	t1a	2	1	39	2	0	7	3	2	17	73
	t1b	4	1	10	1	0	5	0	0	11	32
t2	t2	0	1	3	0	0	1	0	0	5	10
t3	t3	0	0	2	0	0	2	0	0	3	7
t4	t4a	1	0	1	2	0	0	0	0	5	9
	t4b	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	計	7	3	56	5	0	15	3	2	41	132
	不 明	1	0	1	0	0	0	0	1	3	6

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車 検 診	1	5	6	42.9%	3	5	14	2
施 設 検 診	1	2	3	50.0%	3	0	6	0
内 視 鏡 検 診	17	31	48	42.9%	48	16	112	4
計	19	38	57	43.2%	54	21	132	6

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	0	0	24
M	6	1	36
L	6	4	31
全 体	0	0	0
計	12	5	91
不 明	0	0	2

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	5	3	42
大 弯	3	1	15
前 壁	2	1	18
後 壁	2	0	16
全 周	0	0	0
計	12	5	91
不 明	0	0	2

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	1	0	9
M	3	1	6
L	0	0	8
全 体	0	0	0
計	4	1	23
不 明	0	0	0

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	0	1	10
大 弯	1	0	3
前 壁	1	0	0
後 壁	1	0	7
全 周	1	0	3
計	4	1	23
不 明	0	0	0

表 8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	X 線		内 視 鏡	
I a	6	2	46	3	0	12	3	2	28	12	4	86	16	72.7%	86	76.11%
I b	0	0	5	0	0	1	0	0	3	0	0	9	0	0.0%	9	7.96%
II a	0	1	1	0	0	1	0	0	2	0	1	4	1	4.5%	4	3.54%
II b	1	0	1	0	0	0	0	0	4	1	0	5	1	4.5%	5	4.42%
III a	0	0	1	1	0	1	0	0	1	1	0	3	1	4.5%	3	2.65%
III b	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0.0%	2	1.77%
III c	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0.0%	2	1.77%
IV	1	0	1	1	0	0	0	1	1	2	1	2	3	13.6%	2	1.77%
計	8	3	56	5	0	15	3	3	42	16	6	113	22	100.0%	113	100.0%
不明	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3	0		3	

表 9 前年度受診歴を有する進行胃癌症例

地区	検診	歳	性	型	深達度	組織型	大きさ (mm)	占拠部位	Stage	前年度受診結果	
東部	車	79	男	5	t4a	tub2	60×30	U 後壁	II b	車	異常なし
	施	62	男	5	t2	tub2	15×14	L 小弯	II a	内視鏡	異常なし
	内	60	男	2	t2	tub2	55×35	M 小弯	II a	内視鏡	小弯吻合部潰瘍・要治療
		84	女	3	t4b	por1	70×45	U 後壁大弯	III c	内視鏡	胃ポリープ・要精査
中部	車	87	男	1	t4a	tub2	切除不能	M 小弯	IV	車	異常なし
		57	女	4	t4a	sig	80×80	ML 大弯	III a	車	異常なし
西部	内	64	男	5	t4a	por2	30×30	L 小弯	III a	内視鏡	胃腺種・要精査(未受診)
		63	女	3	t4a	sig	31×29	UM 大弯	IV	内視鏡	胃ポリープ・精査不要
		68	女	3	t4a	por1	30×25	UM 小弯	II b	内視鏡	胃ポリープ・要精査(未受診)

2. 子宮がん検診

1. 子宮頸部がん検診実績

平成22年度の対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）139,232人のうち、受診者数28,453人で、受診率20.4%であった。平成21年度より受診者数は1,510人増加し、受診率も1.0ポイント増加した。その要因は20歳代、30歳代の受診者数が前年度に比べ1,370人増加したことによる。特に、平成21年度より無料クーポン券を配布されたこと、郵送により個別通知の受診勧奨を行ったこと等により、鳥取市、米子市の若年層の受診者数が増加した。また、若年層の増加により初回受診者が増え、過去3年間に検診を受診している経年受診者割合は66.3%で、前年度より6.3ポイントも減少した。

要精検者数293人（判定不能で再検未実施となった者71人を含む）、要精検率1.03%、そのうち、精検受診者数192人、精検受診率65.5%であった。平成21年度より要精検者数は93人増加し、要精検率も0.29ポイント増加した。精検受診率は24.0ポイントも大幅に減少した。

平成22年度から細胞診判定がベセスダシステムとなったことに伴い、集計方法を変更したため、要精検の中に、判定不能で再検未実施となった者を含んだ数を計上することとなった。その結果、要精検者の増加と、精検受診者の減少をきたしたものと考えられる。

精検結果は、がん20人、がん発見率（がん／受診者数）は0.07%、陽性反応適中度（がん／精検受診者数）は10.4%であった。異形成は105人（軽度69人、高度36人）であった。平成21年度に比べ、がんは5人増加し、異形成は5人多く見つかっている。

40歳未満の要精検率が高く、30歳代のがんは平成21年度に比べ9人も多く発見され、がん発見率も高かった。

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者28,435人中、体部がん検診対象者数は707人、一次検診会場での受診者は608人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は63人、受診者の合計は671人、受診率は94.9%であった。

一次検診の結果、要精検となった者2人、要精検率0.33%、精密検査受診者数は1人、精検受診率50.0%であった。精検の結果、子宮体部がんが1人、また医療機関での別途受診者から子宮体部がんが1人発見され、合わせると、がん発見率は0.30%であった。陽性反応適中度は100.0%であった。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

平成22年度は子宮頸部癌18名で、0期12例、Ia期が3例、Ib期以上が3例であった。なお、Ib期以上3例の検診歴は、初回2例、2年前受診1例であった。

異形成は105例だった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は2例、子宮内膜増殖症は0例であった。

4. その他

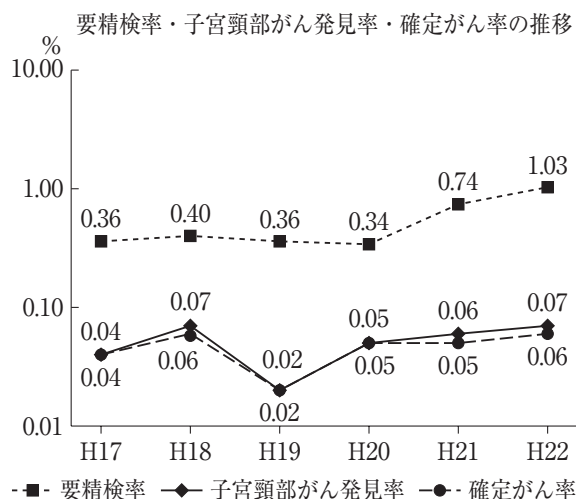
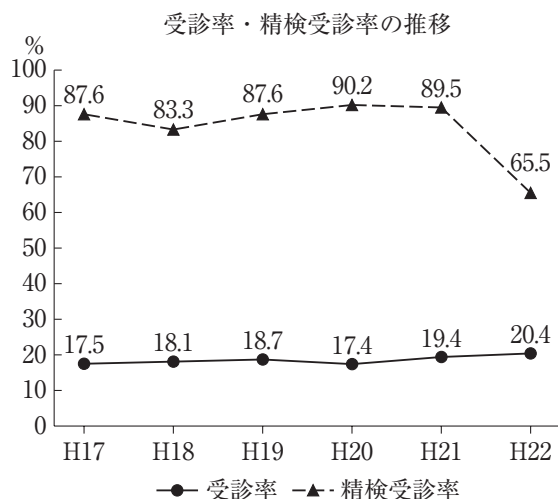
1) 平成22年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

平成22年度妊婦健康診査受診者4,921人中、子宮頸部がん検診受診者数4,752人、受診率96.6%で、要精検者数72人、要精検率1.5%であった。市町村が把握できた精検結果は66人で、そのうちがんが2人、異形成が32人であった。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区分		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
一次検診	対象者数(人) A	139,203	133,250	130,796	139,232	139,232	139,232
	受診者数(人) B	24,416	24,150	24,450	24,207	26,943	28,453
	受診率(%) C = B / A	17.5	18.1	18.7	17.4	19.4	20.4
一次検診結果	異常認めず(人) D	24,327	24,054	24,361	24,125	26,743	28,098
	要精検者数(人) E	89	96	89	82	200	293
	判定不能(人) F	—	—	—	—	—	62
	要精検率(%) G = E / B	0.36	0.40	0.36	0.34	0.74	1.03
精密検査	精検受診者数(人) H	78	80	78	74	179	192
	精検受診率(%) I = H / E	87.6	83.3	87.6	90.2	89.5	65.5
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	10(42)	16(36)	5(35)	11(32)	15(100)	20(105)
	子宮がん発見率(%) K = J / B	0.04	0.07	0.02	0.05	0.06	0.07
	陽性反応適中度(%) L = J / H	12.8	20.0	6.4	14.9	8.4	10.4
確定調査結果	確定がん数(人) M	9	15	4	11	14	18
	確定がん率(%) N = M / B	0.04	0.06	0.02	0.05	0.05	0.06

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値は、異形成の者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- * 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成22年度子宮頸部がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 (人) a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 (再掲)	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20～24歳	4,768	548	11.5	63	13	5	530	2.37
25～29歳	4,693	1,304	27.8	274	38	1	1,265	2.91
30～34歳	6,029	2,121	35.2	789	46	4	2,071	2.17
35～39歳	5,066	2,567	50.7	1,337	48	9	2,510	1.87
40～44歳	4,207	2,670	63.5	1,484	26	5	2,639	0.97
45～49歳	4,460	2,169	48.6	1,561	22	1	2,146	1.01
50～54歳	6,518	2,457	37.7	1,753	23	4	2,430	0.94
55～59歳	9,630	2,688	27.9	1,978	19	11	2,658	0.71
60～64歳	12,735	4,123	32.4	3,204	22	9	4,092	0.53
65～69歳	15,529	3,062	19.7	2,494	12	8	3,042	0.39
70～74歳	18,248	2,651	14.5	2,203	13	4	2,634	0.49
75～79歳	18,215	1,509	8.3	1,246	6	1	1,502	0.40
80歳以上	29,134	584	2.0	478	5	0	579	0.86
計	139,232	28,453	20.4	18,864	293	62	28,098	1.03

要精検者数は、平成22年度報告から、一次検診で判定不能の者のうち、再検が未実施の者も含んだ数を計上している。

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) f	精密検査受診率 (%) g = f/d	精 密 検 査 結 果							子宮頸部がん発見率 (%) n = k/b	陽性反応適中度 (%) o = k/f	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 h = i + j	軽度異形成 i	高度異形成 j	子宮がん k = l + m	上皮内がん l			浸潤がん m
20~24歳	11	84.6	4	1	6	6	0	0	0	0	0.000	0.0
25~29歳	30	78.9	3	5	22	15	7(5)	0	0	0	0.000	0.0
30~34歳	36	78.3	8	1	19	14	5(1)	8	6	2	0.377	22.2
35~39歳	38	79.2	9	4	20	10	10(6)	5	3	2	0.195	13.2
40~44歳	20	76.9	7	1	12	7	5(3)	0	0	0	0.000	0.0
45~49歳	14	63.6	3	2	7	4	3(2)	2	2	0	0.092	14.3
50~54歳	13	56.5	7	0	5	2	3(2)	1	1	0	0.041	7.7
55~59歳	6	31.6	2	0	3	3	0	1	0	1	0.037	16.7
60~64歳	9	40.9	2	2	4	4	0	1	1	0	0.024	11.1
65~69歳	6	50.0	2	0	3	3	0	1	0	1	0.033	16.7
70~74歳	6	46.2	2	0	3	1	2	1	1	0	0.038	16.7
75~79歳	1	16.7	0	0	1	0	1(1)	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	2	40.0	2	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	192	65.5	51	16	105	69	36(20)	20	14	6	0.070	10.4

※ () 内は中等度異形成を内数で計上

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

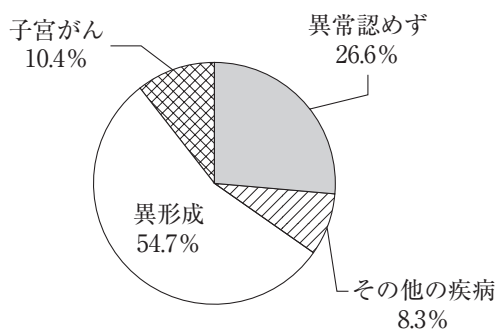
一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一 次 検 診 結 果			要精検率 (%) c' = b'/a'
		要精検者数 b'	判定不能	異常認めず	
保健事業団	10,229	50	0	10,179	0.49
病 院	6,291	71	17	6,203	1.13
診 療 所	11,933	172	45	11,716	1.44
計	28,453	293	62	28,098	1.03

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 (人) d'	精密検査受診率 (%) e' = d'/b'	精 密 検 査 結 果							子宮頸部がん発見率 (%) l' = i'/a'	陽性反応適中度 (%) m' = i'/d'	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 f' = g' + h'	軽度異形成 g'	高度異形成 h'	子宮がん i' = j' + k'	上皮内がん j'			浸潤がん k'
保健事業団	40	80.0	16	1	20	17	3(1)	3	3	0	0.029	7.5
病 院	45	63.4	10	4	22	12	10(3)	9	6	3	0.143	20.0
診 療 所	107	62.2	25	11	63	40	23(16)	8	5	3	0.067	7.5
計	192	65.5	51	16	105	69	36(20)	20	14	6	0.070	10.4

※ () 内は中等度異形成

精密検査結果



4) 平成22年度子宮頸部がん検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員							
	A	B	C	計	施設検診	車検診	受診率 (%)	E = D/A	F	G	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	L	M	N	O	P = M+N+O	がん 発見 率 (%)
鳥取市	43,523	2,155	5,798	7,953	18.3	9	94	103	1.30	64	62.1	16	6	37	5	48	0.063	7.8		
米子市	33,143	0	7,339	7,339	22.1	0	80	80	1.09	63	78.8	12	4	40	7	51	0.095	11.1		
倉吉市	12,556	777	1,185	1,962	15.6	4	12	16	0.82	11	68.8	4	0	4	3	7	0.153	27.3		
境港市	8,086	0	1,083	1,083	13.4	0	6	6	0.55	6	100.0	2	0	4	0	4	0.000	0.0		
岩美町	3,227	660	64	724	22.4	3	0	3	0.41	3	100.0	1	0	1	1	2	0.138	33.3		
八頭町	4,552	1,135	170	1,305	28.7	6	1	7	0.54	7	100.0	1	0	6	0	6	0.000	0.0		
若桜町	1,237	294	30	324	26.2	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0		
智頭町	2,219	253	293	546	24.6	2	2	4	0.73	3	75.0	1	0	2	0	2	0.000	0.0		
湯梨浜町	3,996	578	384	962	24.1	2	3	5	0.52	4	80.0	2	1	1	0	2	0.000	0.0		
三朝町	1,826	334	82	416	22.8	1	0	1	0.24	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0		
北栄町	3,773	847	95	942	25.0	2	0	2	0.21	1	50.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0		
琴浦町	4,933	1,276	0	1,276	25.9	17	0	17	1.33	15	88.2	6	1	7	1	9	0.078	6.7		
南部町	2,906	362	376	738	25.4	1	7	8	1.08	3	37.5	2	1	0	0	1	0.000	0.0		
伯耆町	3,068	563	271	834	27.2	1	4	5	0.60	4	80.0	2	0	0	2	2	0.240	50.0		
日吉津村	692	71	274	345	49.9	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0		
大山町	5,179	359	435	794	15.3	0	14	14	1.76	4	28.6	1	0	2	1	3	0.126	25.0		
日南町	2,044	332	24	356	17.4	2	0	2	0.56	1	50.0	1	0	0	0	0	0.000	0.0		
日野町	1,240	233	0	233	18.8	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0		
江府町	1,032	0	321	321	31.1	0	20	20	6.23	3	15.0	0	3	0	0	3	0.000	0.0		
合計	139,232	10,229	18,224	28,453	20.4	50	243	293	1.03	192	65.5	51	16	105	20	141	0.070	10.4		
東部	54,758	4,497	6,355	10,852	19.8	20	97	117	1.08	77	65.8	19	6	46	6	58	0.055	7.8		
中部	27,084	3,812	1,746	5,558	20.5	26	15	41	0.74	31	75.6	12	2	13	4	19	0.072	12.9		
西部	57,390	1,920	10,123	12,043	21.0	4	131	135	1.12	84	62.2	20	8	46	10	64	0.083	11.9		

(3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		17 年 度			18 年 度			19 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	710		710	672		672	732		732
	受 診 者 数(人) B	636	34	670	577	20	597	641	24	665
	受 診 率(%) C = B / A	89.6		94.4	85.9		88.8	87.6		90.9
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	627			555			624		
	要 精 検 者 数(人) E	9			22			17		
	判 定 不 能(人) F	—			—			—		
要 精 検 率(%) G = E / B		1.42			3.81			2.65		
	精 検 受 診 者 数(人) H	7			17			17		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E	77.8			77.3			100.0		
	子 宮 が ん の 者(人) J	3(2)	0(2)	3(4)	1(1)	1(1)	2(2)	0(7)	0(3)	0(10)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B	0.47	0.00	0.45	0.17	5.00	0.34	0.00	0.00	0.00
陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J / H		42.9			5.9			0.0		
	確 定 が ん 数 (人)			3			2			1
確 定 が ん 率 (%)			0.45			0.34				0.15

区 分		20 年 度			21 年 度			22 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	667		667	715		715	707		707
	受 診 者 数(人) B	593	49	642	608	71	679	608	63	671
	受 診 率(%) C = B / A	88.9		96.3	85.0		95.0	86.0		94.9
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	580			601			605		
	要 精 検 者 数(人) E	13			7			2		
	判 定 不 能(人) F	—			—			1		
要 精 検 率(%) G = E / B		2.19			1.15			0.33		
	精 検 受 診 者 数(人) H	12			4			1		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E	92.3			57.1			50.0		
	子 宮 が ん の 者(人) J	5(1)	0(3)	5(4)	3(0)	2(4)	5(4)	1(0)	1(0)	2(0)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B	0.84	0.00	0.78	0.49	2.82	0.74	0.16	1.59	0.30
陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J / H		41.7			75.0			100.0		
	確 定 が ん 数 (人)			5			3	1	1	2
確 定 が ん 率 (%)			0.78			0.44				0.30

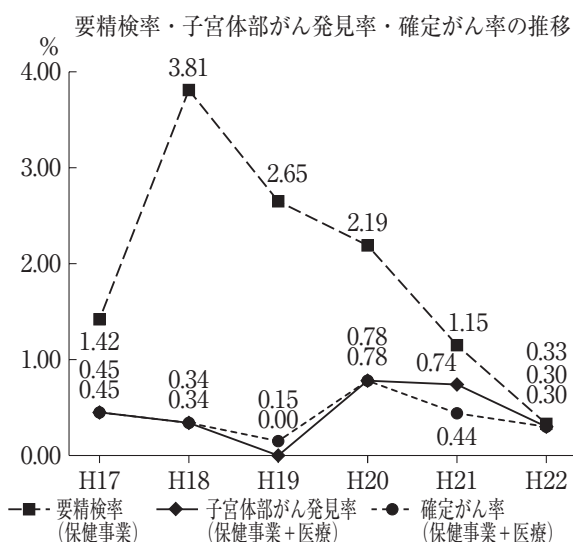
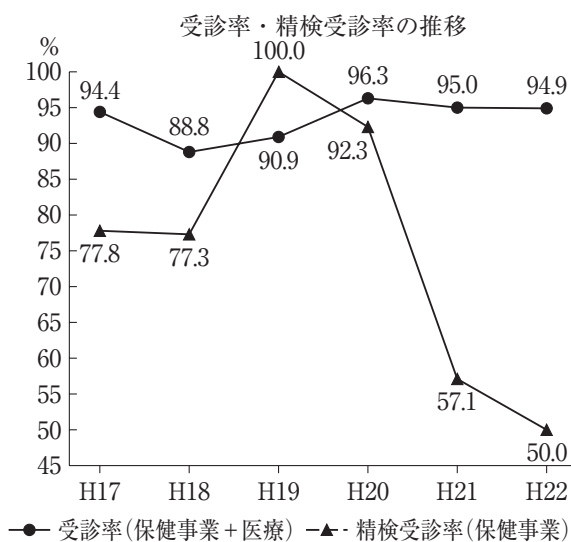
※1 「保健事業分」=集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」=集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者

※2 精密検査結果欄の()内の数値は、子宮内膜増殖症の数を外数で計上

※3 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上

※4 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出

※5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 平成22年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診 対象者数(人) a	一次検診 受診者数 b	受診率(%) c = b / a	一次検診結果			要精検率(%) e = d / b
				要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20～24歳	3	3	100.0	0	0	3	0.00
25～29歳	14	13	92.9	0	0	13	0.00
30～34歳	33	28	84.8	1	0	27	3.57
35～39歳	62	53	85.5	0	0	53	0.00
40～44歳	103	86	83.5	0	0	86	0.00
45～49歳	120	113	94.2	1	0	112	0.88
50～54歳	171	152	88.9	0	0	152	0.00
55～59歳	75	64	85.3	0	0	64	0.00
60～64歳	61	48	78.7	0	0	48	0.00
65～69歳	30	21	70.0	0	0	21	0.00
70～74歳	20	14	70.0	0	0	14	0.00
75～79歳	12	11	91.7	0	1	10	0.00
80歳以上	3	2	66.7	0	0	2	0.00
計	707	608	86.0	2	1	605	0.33

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人) f	精検受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果				子宮体部 がん発見率 (%) i = h / b	陽性反応 適中度 (%) j = h / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜 増殖症	子宮体部 がん h		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
40～44歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
45～49歳	1	100.0	0	0	0	1	0.88	100.0
50～54歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
55～59歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
60～64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
65～69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
70～74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	1	50.0	0	0	0	1	0.16	100.0

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診できなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検査 受診者数(人) a'	精 密 検 査 結 果					子宮体部がん発見率 (%) c' = b' / a'
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん b'	判定不能	
20～24歳	1	1	0	0	0	0	0.000
25～29歳	0	0	0	0	0	0	0.000
30～34歳	3	3	0	0	0	0	0.000
35～39歳	7	7	0	0	0	0	0.000
40～44歳	10	10	0	0	0	0	0.000
45～49歳	2	2	0	0	0	0	0.000
50～54歳	13	13	0	0	0	0	0.000
55～59歳	7	7	0	0	0	0	0.000
60～64歳	9	9	0	0	0	1	0.000
65～69歳	6	4	1	0	1	0	16.667
70～74歳	4	3	1	0	0	0	0.000
75～79歳	1	1	0	0	0	0	0.000
80歳以上	0	0	0	0	0	0	0.000
計	63	60	2	0	1	1	1.587

4) 平成22年度子宮体部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者 (人)	車検診	施設検診	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診	施設検診	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診 率(%) K=J/H	異 常 認めず L	その 他の 疾病 M	子宮内 膜 増殖 症 N	がん O	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/J
鳥取市	306		229	229	74.8		1	1	0.44	1	100.0	0	0	0	1	1	0.44	100.0
米子市	212		212	212	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
倉吉市	88		79	79	89.8		1	1	1.27	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
境港市	8		8	8	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
岩美町	—		—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八頭町	2		0	0	0.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
若桜町	1		1	1	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	—		—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
湯梨浜町	37		29	29	78.4		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
三朝町	6		6	6	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
北栄町	2		2	2	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
琴浦町	—		—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
南部町	25		25	25	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
伯耆町	—		—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日吉津村	3		3	3	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
大山町	6		6	6	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日南町	—		—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	—		—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
江府町	11		8	8	72.7		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
合計	707		608	608	86.0		2	2	0.33	1	50.0	0	0	0	1	1	0.16	100.0
東部	309		230	230	74.4		1	1	0.43	1	100.0	0	0	0	1	1	0.43	100.0
中部	133		116	116	87.2		1	1	0.86	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
西部	265		262	262	98.9		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0

(5) 平成22年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成21年度	平成22年度	平成21年度	平成22年度
異形成	25	20	74	85
頸癌0期	5	3	6	9
頸癌Ⅰa期	1	0	0	3
頸癌Ⅰb期以上	0	0	2	3
合計	31	23	82	100

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成21年度	平成22年度
内膜増殖症	5	0
体癌Ⅰa、Ⅰb期	2	1
体癌Ⅰc期以上	1	1
合計	8	2

表3 発見子宮がん症例（Ⅰb期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	0	0
2年間隔	0	1	1
3年以上の間隔	0	0	0
初回受診	0	2	2

表4 治療機関

	頸癌0期	頸癌Ⅰa期	頸癌Ⅰb期以上	計
協田産婦人科医院	0	1	0	1
鳥取大学医学附属病院	3	1	2	6
鳥取県立中央病院	3	1	0	4
鳥取市立病院	1	0	1	2
鳥取県立厚生病院	2	0	0	2
博愛病院	3	0	0	3
計	12	3	3	18

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

平成22年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）188,186人のうち、受診者数45,482人、受診率24.2%で前年度より765人、0.4ポイント減少した。

このうち要精検者は2,004人、要精検率4.41%で、平成21年度より118人、0.18ポイント減少した。精密検査受診者は1,767人、精検受診率88.2%で、前年度より121人、0.8ポイント減少した。肺がん検診の受診率は近年ほぼ横ばいで、平成17年度以降は30%を下回っている。要精検率と精検受診率は引き続き高く、その結果、肺がん50人、がん疑い67人の計117人が発見され、肺がん発見率は0.11%であった。追跡調査の結果、確定肺がんは69人（原発性65人、転移性4人）で、確定がん率は0.15%となり、前年度よりも0.04ポイント増加したが、がん疑いそのまま確定がんに至らないケースも依然として多数あった。陽性反応適中度は前年度1.6%に比較して、平成22年度は2.8%と1.2ポイント増加した。これは高い要精検率、要精検受診率から多数のがんが発見されていることに他ならず、良好な陽性反応適中度からも高い精度が伺える。しかし、要精検率に関しては医療機関検診で高くなっており、依然として地区毎に差がある。受診率の向上、高い陽性反応適中度の維持、肺がん疑いの症例を定期的にフォローすることが今後も重要な課題である。

X線受診者総数45,482人のうち経年受診者は32,089人、経年受診率70.6%であった。喀痰検査の対象となる高危険群所属者は5,341人（11.7%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,607人で、X線検査受診者の5.7%であった。そのうち要精検者は1人、要精検率0.04%であった。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較では、経年受診者のがん発見率は0.084%で、非経年受診者のがん発見率0.172%で、非経年者の方が2倍高かった。また、高危険群所属者5,341人のうちがんが13人発見され、がん発見率0.243%、非高危険群所属者40,141人のうちがんが37人発見され、がん発見率0.092%で、高危険群所属者の方が2.6倍高かった。

平成21年度全国集計によると、受診率17.8%、要精検率2.80%、精検受診率89.3%、がん発見率0.06%、陽性反応適中度2.2%であった。

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

1) 昭和62年から平成22年までの24年間における発見肺がんは984人（発見率10万対71人）であった。発見方法は胸部X線886人（90.0%）、喀痰細胞診53人、両者43人、不明2人で、近年、喀痰細胞診から発見される肺がんの割合は激減している。平均年齢は72.0歳、男性588人、女性396人で、近年の傾向として女性肺がんの増加が著しい。臨床病期はI期が553人（56.2%）で過半数を占め、602人（61.2%）に手術が行われた。予後調査では全例（984人）の累積生存率は5生率46.7%、10生率29.2%であり、手術例では5生率65.1%、10生率43.1%であった。臨床病期I A期の5生率は73.7%、10生率は51.9%と良好な結果を示した。

2) 平成22年度調査結果

- (1) 受診者数は昨年とほぼ同様で、受診率は24.2%であった。要精検率は4.41%と若干減少し、精検受診率は88.2%と引き続き高値であった。がん発見率は0.110%、陽性反応適中度2.8%と昨年を上回った。
- (2) 予後調査では原発性肺がん65例、転移性肺腫瘍4例、合計69例の確定肺癌で、東部地区からがんが多く見つかっている。E判定以外から1名の肺がんが確定した。これらは検診発見肺が

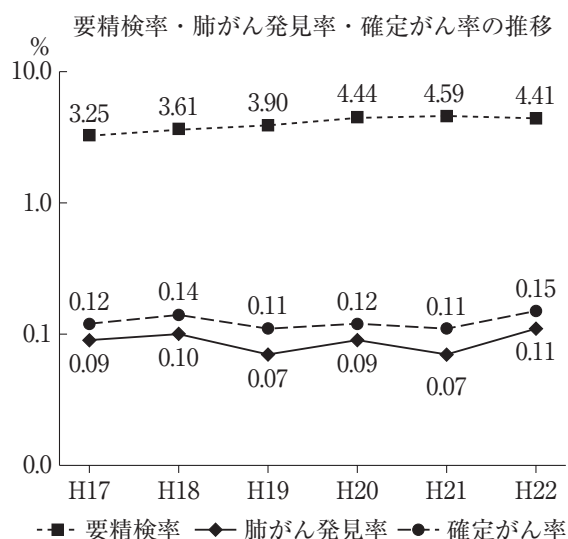
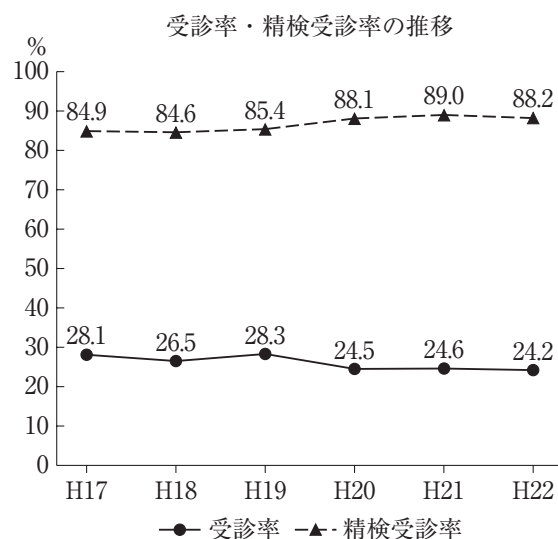
んとしては登録されない。

- (3) 全例(100%)が胸部X線でのみで発見された肺がんで、喀痰細胞診による肺がん発見はなかった。
- (4) 平均年齢は71.6歳、女性肺癌は32例(49.2%)と約半数を占めた。腺癌は52例(78.8%)と引き続き高率であった。
- (5) 手術症例の割合は44例(67.7%)と多く、術後病期Ⅰ期の肺癌が35例(79.5%)、腺癌が38例(86.4%)と多数を占めた。
- (6) 腫瘍径は平均29.4mmでやや大きな腫瘍が見つかる傾向にあり、2cm以下の肺がんも15例(23.1%)と前年度より減少した。
- (7) 転移性肺腫瘍は4例で、原発巣は大腸癌1例、前立腺癌1例、不明2例であった。
- (8) 施設検診と車検診との比較を行ったところ、要精検率は施設検診5.3%、車検診3.9%と施設が高く、特に中部地区が11.6%と高い傾向が見られた。原発性肺がん65例のうち、車検診で35例(発見率0.115%)、施設検診30例(0.201%)であった。

(1) 肺がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	181,410	186,314	175,897	188,186	188,186	188,186
	受 診 者 数(人) B	51,020	49,296	49,806	46,015	46,247	45,482
	受 診 率(%) C = B/A	28.1	26.5	28.3	24.5	24.6	24.2
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	49,361	47,516	47,866	43,974	44,125	43,478
	要 精 検 者 数(人) E	1,659	1,780	1,940	2,041	2,122	2,004
	要 精 検 率(%) F = E/B	3.25	3.61	3.90	4.44	4.59	4.41
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,409	1,505	1,656	1,799	1,888	1,767
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	84.9	84.6	85.4	88.1	89.0	88.2
精密検査結果	肺 がん の 者(人) I	45(87)	47(75)	35(88)	41(94)	31(87)	50(67)
	肺 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.09	0.10	0.07	0.09	0.07	0.11
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	3.2	3.1	2.1	2.3	1.6	2.8
確定調査結果	確 定 が ん 数(人) L	62	68	55	55	49	69
	上記のうち原発性肺がん数(人) M	57	62	48	52	41	65
	確 定 が ん 率(%) N = L/B	0.12	0.14	0.11	0.12	0.11	0.15

- * 1 精密検査結果中の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- * 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上
- * 5 要精密検査者数 (E)、精検受診者数 (G)、肺がんの者 (I)、確定がん数 (L) については、E判定者を計上。(なお、19年度まではD判定から肺がん・肺がん疑いとなった者も追加して計上)



(2) 平成22年度肺がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

a. X線検査結果

年 齢	対象者数(人)		胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査										エックス線フィルム読影結果					
			受 診 者 数		受 診 率 (%)			経年受診者数再掲		経年受診者数割合 (%)		要精検者数		異常認めず		要精検率 (%)		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,115	4,207	406	831	19.2	19.8	19.6	159	353	39.2	42.5	11	19	395	812	2.71	2.29	2.43
45～49歳	2,560	4,460	392	848	15.3	19.0	17.7	215	524	54.8	61.8	13	25	379	823	3.32	2.95	3.06
50～54歳	3,635	6,518	540	1,349	14.9	20.7	18.6	319	814	59.1	60.3	23	35	517	1,314	4.26	2.59	3.07
55～59歳	5,170	9,630	978	2,245	18.9	23.3	21.8	605	1,511	61.9	67.3	34	85	944	2,160	3.48	3.79	3.69
60～64歳	8,313	12,735	2,635	4,853	31.7	38.1	35.6	1,591	3,360	60.4	69.2	133	157	2,502	4,696	5.05	3.24	3.87
65～69歳	10,826	15,529	3,096	4,729	28.6	30.5	29.7	2,146	3,544	69.3	74.9	152	173	2,944	4,556	4.91	3.66	4.15
70～74歳	12,955	18,248	3,376	5,167	26.1	28.3	27.4	2,442	3,900	72.3	75.5	184	219	3,192	4,948	5.45	4.24	4.72
75～79歳	11,885	18,165	2,955	4,472	24.9	24.6	24.7	2,192	3,458	74.2	77.3	169	197	2,786	4,275	5.72	4.41	4.93
80歳以上	12,051	29,184	2,626	3,984	21.8	13.7	16.0	2,001	2,955	76.2	74.2	168	206	2,458	3,778	6.40	5.17	5.66
計	69,510	118,676	17,004	28,478	24.5	24.0	24.2	11,670	20,419	68.6	71.7	887	1,116	16,117	27,362	5.22	3.92	4.40
合計	188,186		45,482		24.2			32,089		70.6		2,003		43,479		4.40		

※1 経年受診者：昨年度も肺がん検診を受診した者

※2 高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として次のいずれかの条件に該当する者

①年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

②6ヵ月以内に血痰のあった者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中 高危険群所属者		喀痰細胞診受診者数 (人) h		喀 痰 細 胞 診 結 果				要精検率 (%) j = i / h	
					要精検者数 i		精 検 不 要			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	24	8	22	11	0	0	22	11	0.00	0.00
45～49歳	43	4	31	4	1	0	30	4	3.23	0.00
50～54歳	171	14	69	9	0	0	69	9	0.00	0.00
55～59歳	351	33	161	26	0	0	161	26	0.00	0.00
60～64歳	989	76	470	52	0	0	470	52	0.00	0.00
65～69歳	1,044	79	498	74	0	0	498	74	0.00	0.00
70～74歳	999	44	484	70	0	0	484	70	0.00	0.00
75～79歳	765	25	332	20	0	0	332	20	0.00	0.00
80歳以上	659	13	261	13	0	0	261	13	0.00	0.00
計	5,045	296	2,328	279	1	0	2,327	279	0.04	0.00
合計	5,341		2,607		1		2,606		0.04	

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (人)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	k		l		m = l / k			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		o = n / b			p = n / l		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	11	19	10	16	90.9	84.2	86.7	7	12	3	4	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	14	25	9	22	64.3	88.0	79.5	4	8	5	13	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	23	35	17	30	73.9	85.7	81.0	12	18	5	8	0	2	0	2	0.000	0.148	0.106	0.0	6.7	4.3
55～59歳	34	85	29	73	85.3	85.9	85.7	16	34	10	35	2	3	1	1	0.102	0.045	0.062	3.4	1.4	2.0
60～64歳	133	157	114	139	85.7	88.5	87.2	59	62	46	71	5	6	4	0	0.152	0.000	0.053	3.5	0.0	1.6
65～69歳	152	173	137	150	90.1	86.7	88.3	59	74	68	68	4	7	6	1	0.194	0.021	0.089	4.4	0.7	2.4
70～74歳	184	219	168	200	91.3	91.3	91.3	67	102	88	83	6	9	7	6	0.207	0.116	0.152	4.2	3.0	3.5
75～79歳	169	197	148	184	87.6	93.4	90.7	53	87	86	85	4	6	5	6	0.169	0.134	0.148	3.4	3.3	3.3
80歳以上	168	206	143	178	85.1	86.4	85.8	62	75	70	91	6	6	5	6	0.190	0.151	0.166	3.5	3.4	3.4
計	888	1,116	775	992	87.3	88.9	88.2	339	472	381	458	27	40	28	22	0.165	0.077	0.110	3.6	2.2	2.8
合計	2,004		1,767		88.2			811		839		67		50		0.110			2.8		
X線のみ要精検	2,003		1,767		88.2			811		839		67		50		0.110			2.8		
喀痰のみ要精検	1		0		0.0			0		0		0		0		0.000			0.0		
X線+喀痰要精検	0		0		0.0			0		0		0		0		0.000			0.0		

3) 検診機関別

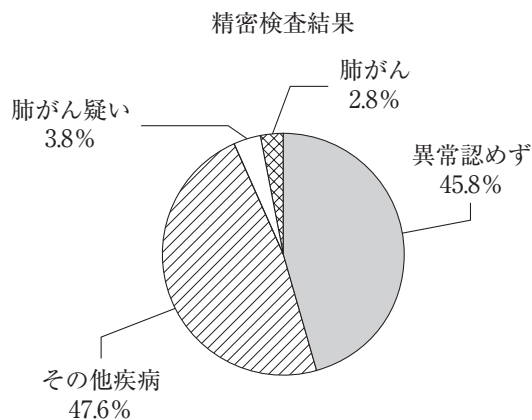
a. 一次検診結果

一次検診機関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果							X線検査受診者中高危険群 所属者数	
	受診者数 (人)		経年受診者数 再掲		要精検者数		異常認めず		要精検率 (人)				
	a'				b'				c' = b' / a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保健事業団	10,982	18,828	7,613	13,640	501	671	10,481	18,157	4.56	3.56	3.93	3,104	105
中国労働衛生協会	281	434	208	336	20	12	261	422	7.12	2.76	4.48	34	0
病院	2,402	3,556	1,561	2,453	172	186	2,230	3,370	7.16	5.23	6.01	808	85
診療所	3,339	5,660	2,288	3,990	194	247	3,145	5,413	5.81	4.36	4.90	1,099	106
計	17,004	28,478	11,670	20,419	887	1,116	16,117	27,362	5.22	3.92	4.40	5,045	296
合計	45,482		32,089		2,003		43,479		4.40			5,341	

一次検診機関	喀痰容器提出者数		喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診とも必要精検者数 g'		一次検診結果				
			要精検者数 d'		精検不要 e'		要精検率(%) f' = e' / d'				要精検者数 h' = b' + d' - g'		要精検率(%) i' = h' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計		
保健事業団	1,291	172	0	0	1,291	172	0.00	0.00	0	0	501	671	4.56	3.56	3.93
中国労働衛生協会	34	0	0	0	34	0	0.00	0.00	0	0	20	12	7.12	2.76	4.48
病院	465	53	1	0	464	53	0.22	0.00	0	0	173	186	7.20	5.23	6.03
診療所	538	54	0	0	538	54	0.00	0.00	0	0	194	247	5.81	4.36	4.90
計	2,328	279	1	0	2,327	279	0.04	0.00	0	0	888	1,116	5.22	3.92	4.41
合計	2,607		1		2,606		0.04		0		2,004		4.41		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人) j'		精密検査受診率(%) k' = j' / h'			精密検査結果								肺がん発見率(%) m' = l' / a'			陽性反応適中度(%) h' = l' / j'		
						異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	426	587	85.0	87.5	86.4	190	308	199	247	21	19	16	13	0.146	0.069	0.097	3.8	2.2	2.9
中国労働衛生協会	14	10	70.0	83.3	75.0	9	7	4	2	1	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
病院	152	168	87.9	90.3	89.1	62	57	79	98	5	9	6	4	0.250	0.112	0.168	3.9	2.4	3.1
診療所	183	227	94.3	91.9	93.0	78	100	99	111	0	11	6	5	0.180	0.088	0.122	3.3	2.2	2.7
計	775	992	87.3	88.9	88.2	339	472	381	458	27	40	28	22	0.165	0.077	0.110	3.6	2.2	2.8
合計	1,767		88.2			811		839		67		50		0.110			2.8		



4) 平成22年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精検受診 者数 J	精検受診 率(%) K=J/H	異認めず L	その他の 疾病 M	がん疑い が N	O	入 有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/J
鳥取市	56,203	2,908	12,544	15,452	27.5	68	561	629	4.07	563	89.5	230	292	19	22	333	0.142	3.9
米子市	41,718	5,354	0	5,354	12.8	216	0	216	4.03	196	90.7	87	100	5	4	109	0.075	2.0
倉吉市	17,326	1,773	1,000	2,773	16.0	103	127	230	8.29	205	89.1	81	105	14	5	124	0.180	2.4
境港市	10,887	1,052	0	1,052	9.7	68	0	68	6.46	65	95.6	62	0	1	2	3	0.190	3.1
岩美町	4,781	999	0	999	20.9	31	0	31	3.10	31	100.0	26	4	0	1	5	0.100	3.2
八頭町	6,612	2,787	216	3,003	45.4	68	2	70	2.33	56	80.0	21	30	1	4	35	0.133	7.1
若桜町	1,864	542	0	542	29.1	14	0	14	2.58	13	92.9	8	5	0	0	5	0.000	0.0
智頭町	3,343	517	285	802	24.0	15	15	30	3.74	25	83.3	15	10	0	0	10	0.000	0.0
湯梨浜町	5,856	1,714	548	2,262	38.6	82	68	150	6.63	143	95.3	74	58	6	5	69	0.221	3.5
三朝町	2,750	1,161	69	1,230	44.7	63	6	69	5.61	51	73.9	24	21	5	1	27	0.081	2.0
北栄町	5,699	1,815	221	2,036	35.7	62	13	75	3.68	66	88.0	30	34	1	1	36	0.049	1.5
琴浦町	7,298	2,947	74	3,021	41.4	121	8	129	4.27	110	85.3	43	60	7	0	67	0.000	0.0
南部町	4,188	1,220	0	1,220	29.1	58	0	58	4.75	53	91.4	22	27	1	3	31	0.246	5.7
伯耆町	4,502	1,634	0	1,634	36.3	51	0	51	3.12	44	86.3	23	19	2	0	21	0.000	0.0
日吉津村	897	268	0	268	29.9	17	0	17	6.34	16	94.1	6	10	0	0	10	0.000	0.0
大山町	7,684	2,143	0	2,143	27.9	82	0	82	3.83	63	76.8	27	34	2	0	36	0.000	0.0
日南町	3,182	602	0	602	18.9	35	0	35	5.81	28	80.0	10	16	0	2	18	0.332	7.1
日野町	1,843	374	0	374	20.3	18	0	18	4.81	15	83.3	6	8	1	0	9	0.000	0.0
江府町	1,553	715	0	715	46.0	32	0	32	4.48	24	75.0	16	6	2	0	8	0.000	0.0
合計	188,186	30,525	14,957	45,482	24.2	1,204	800	2,004	4.41	1,767	88.2	811	839	67	50	956	0.110	2.8
東部	72,803	7,753	13,045	20,798	28.6	196	578	774	3.72	688	88.9	300	341	20	27	388	0.130	3.9
中部	38,929	9,410	1,912	11,322	29.1	431	222	653	5.77	575	88.1	252	278	33	12	323	0.106	2.1
西部	76,454	13,362	0	13,362	17.5	577	0	577	4.32	504	87.3	259	220	14	11	245	0.082	2.2

(3) 平成22年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性984、転移性118） 1,102例
 他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総 計 1,114例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43

	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
原発性肺癌	38	53	40	41	42	30	48	65	50
転移性肺腫瘍	4	2	7	7	6	7	6	3	2
合 計	42	55	47	48	48	37	54	68	52

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	合計
原発性肺癌	57	62	48	52	41	65	984
転移性肺腫瘍	5	6	7	3	8	4	118
合 計	62	68	55	55	49	69	1,102

2) 原発性肺がん診断方法

		〔H22年度集計〕	
胸 X 間 接	Dのみ	245例	886例(90.0%)
	Eのみ	641例	
細 胞 診	Dのみ	19例	53例(5.4%)
	Eのみ	34例	
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	43例(4.4%)
	D + E	8例	
	E + D	6例	
	E + E	19例	
	不明	2例	
計		984例	
		〔H22年度集計〕	
Dのみ	0例	65例(100.0%)	
	Eのみ		65例
Dのみ	0例	0例(0.0%)	
	Eのみ		0例
D + D	0例	0例(0.0%)	
	D + E		0例
	E + D		0例
E + E	0例	0例(0.0%)	
	不明		0例
計		65例	

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
計	1,377,737	17,125(1.24%)	14,551(85.0%)	984	71

4) 原発性肺癌 (984例)

(1) 年齢・性別

[H22年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	67例	6.8
60～69歳	292	29.7
70～79歳	456	46.3
80～	169	17.2
計	984	100.0

平均年齢=72.0
男：女=588例：396例

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	4例	6.2
60～69歳	18	27.7
70～79歳	33	50.8
80～	10	15.4
計	65	100.0

平均年齢=71.6
男：女=33例：32例

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

[H22年度集計]

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	393(39.9)
I B	158
II A	33
II B	60
III A	135
III B	66
IV	110
不明	27
計	984

臨床病期	(%)
Occult	0
I A	32(49.2)
I B	8
II A	3
II B	1
III A	10
III B	4
IV	6
不明	1
計	65

} 40
(61.5)

b. 組織型

組織型	(%)
扁平上皮癌	245例
腺癌	579(58.7)
大細胞癌	15
小細胞癌	56
腺扁平上皮癌	9
腺様嚢胞癌	1
不明	81
計	986*

〔H22年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	6例
腺癌	52(78.8)
大細胞癌	1
小細胞癌	3
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
不明	4
計	66*

* 2例：扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌の同時多発癌を含む（H22年度1例）

(3) 原発性肺癌の手術症例（602例、

手術率：61.2%）

a. 臨床病期、術後病期

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
I A	337(56.0)	I A	294(48.8)
I B	124	I B	137
II A	19	II A	23
II B	34	II B	40
III A	67	III A	68
III B	13	III B	23
IV	6	IV	15
計	602	計	602

〔H22年度集計〕

原発性肺癌の手術症例

（44例、手術率：67.7%）

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
I A	28(63.6)	I A	21(47.7)
I B	7	I B	14
II A	3	II A	2
II B	0	II B	0
III A	6	III A	6
III B	0	III B	0
IV	0	IV	1
計	44	計	44

b. 組織型分類

組織型	(%)
扁平上皮癌	135例
腺癌	426(70.8)
大細胞癌	12
小細胞癌	6
腺扁平上皮癌	10
腺様嚢胞癌	1
不明	12
計	602

〔22年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	3例
腺癌	38(86.4)
大細胞癌	0
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
不明	3
計	44

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)	H20年度 (%)	H21年度 (%)	H22年度 (%)
0～10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4	3	2	2
11～20	9(22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)	11	26(41.9)	14(31.8)	21(40.4)	10	13
21～30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.6)	15	18	6	13(31.7)	26(40.0)
31～40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5	14	8	15
41～50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3	5	6	6
51～	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1	1	2	2
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3	2	0	1
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41	65
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm	26.1mm	25.9mm	29.4mm
	最高90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm	71mm	68mm	80mm

5) 転移性肺腫瘍 (118例)

大腸癌：29例 甲状腺癌：10例 腎臓癌：11例 乳癌：11例 前立腺癌：11例
 肝臓癌：7例 胃癌：4例 尿管癌：4例 胆のう癌：3例 胆管癌：3例
 子宮癌：3例 卵巣癌：2例 肺癌：2例 食道癌：2例 膵臓癌：2例
 顎下腺：1例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 膀胱癌：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 不明：7例

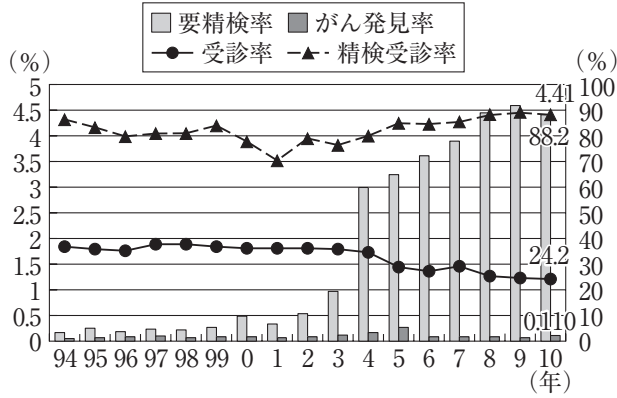
平成22年度集計 (4例)

大腸癌：1例 前立腺癌：1例 不明：2例

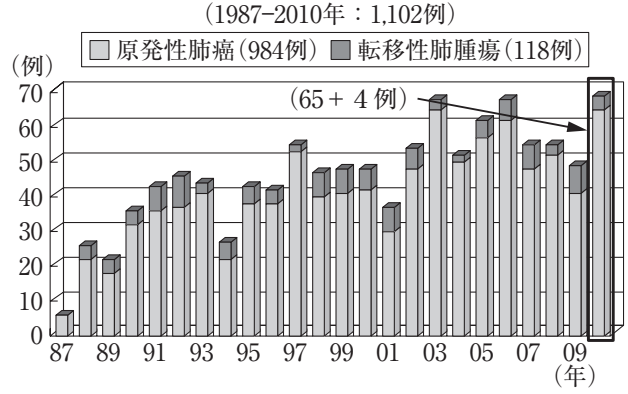
6) 平成22年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	施設検診	車検診
受診者数	14,957	30,525
要精検数	800(5.3%) 東部：578(4.4%) 中部：222(11.6%) 西部：—	1,204(3.9%) 東部：196(2.5%) 中部：431(4.6%) 西部：577(4.3%)
確定者数	30名(0.201%)	35名(0.115%)
発見方法	E1判定 26名 E2判定 4名	E判定 3名 E1判定 21名 E2判定 11名
年齢	73.1歳	70.3歳
性差	男13名、女17名	男20名、女15名
臨床病期	I A 16名、I B 3名 II A 1名、II B 1名 III A 7名、III B 0名 IV 1名、不明1名	I A 16名、I B 5名 II A 2名、II B 0名 III A 3名、III B 4名 IV 5名
組織型	扁平上皮3名、腺癌24名 大細胞癌0名、小細胞癌1名 不明2名	扁平上皮癌4名、腺癌27名 大細胞癌1名、小細胞癌2名 不明2名(重複1名)
手術	あり20名、なし9名、不明1名	あり24名、なし11名
腫瘍径	27.6mm	30.9mm

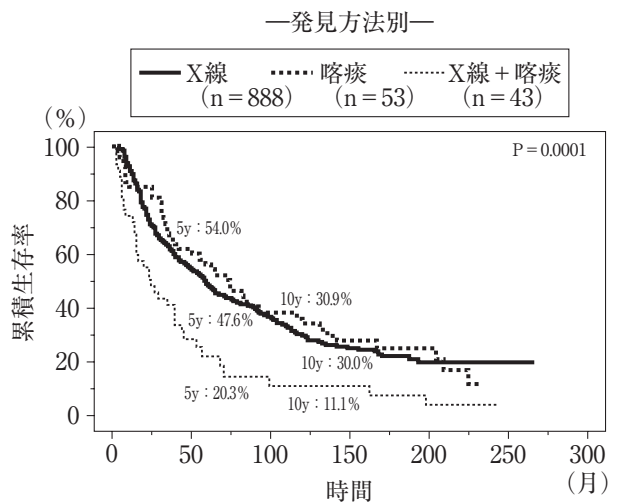
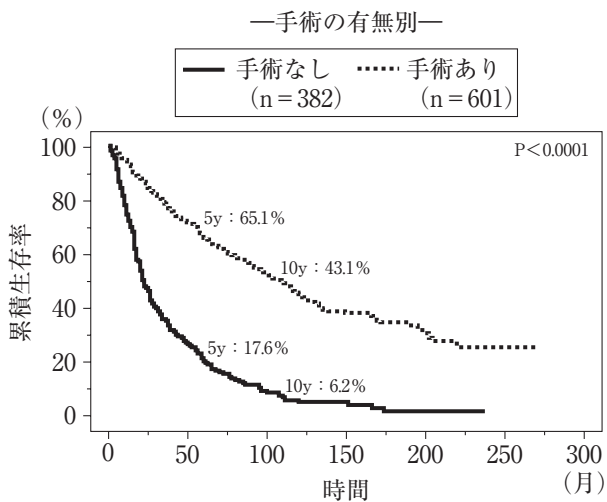
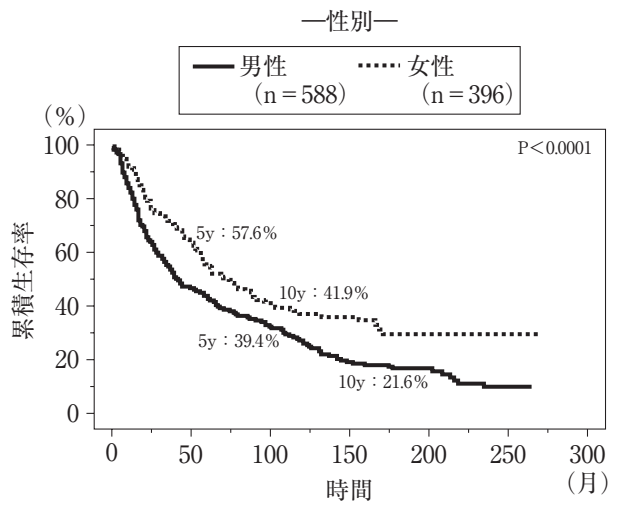
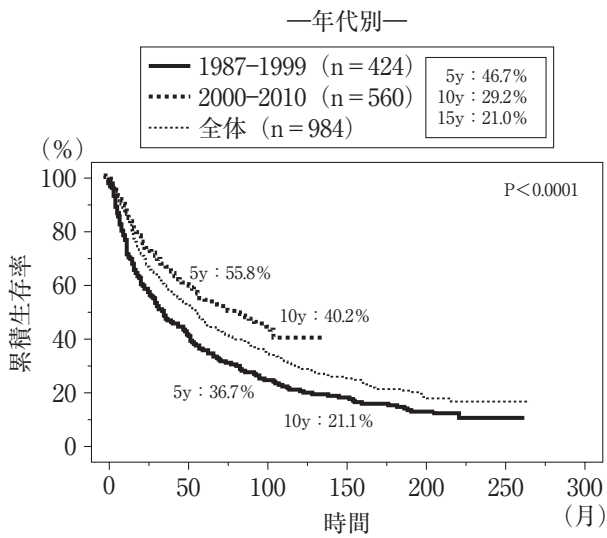
7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移

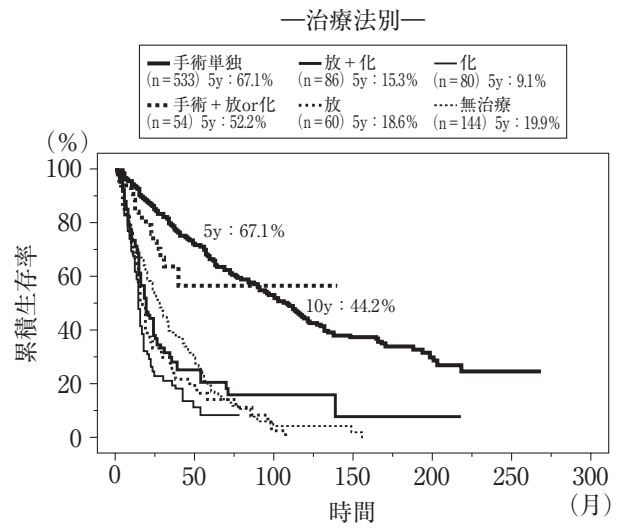
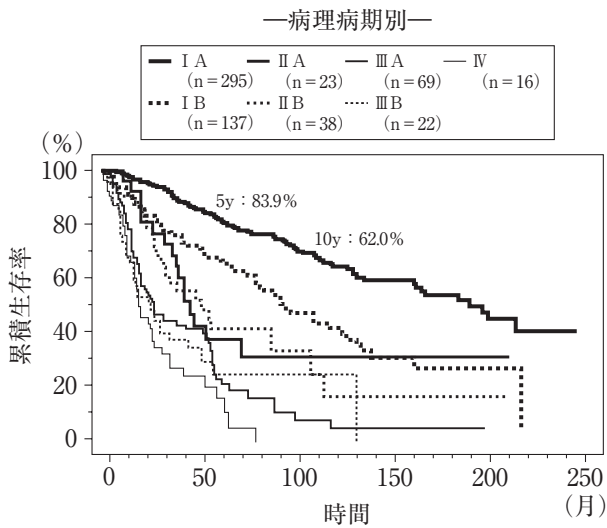
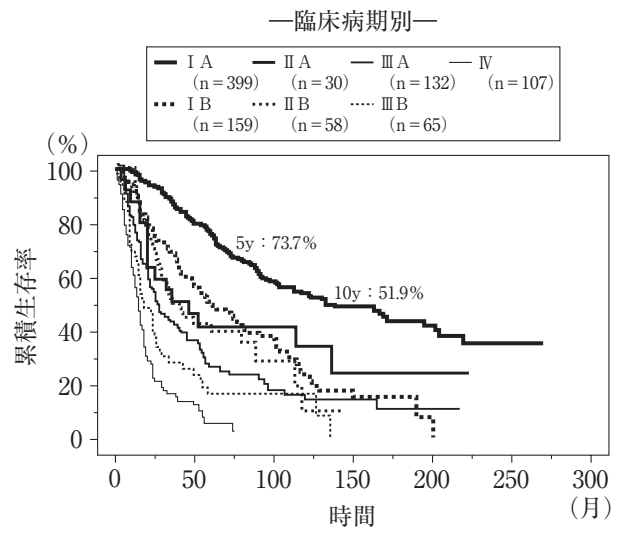
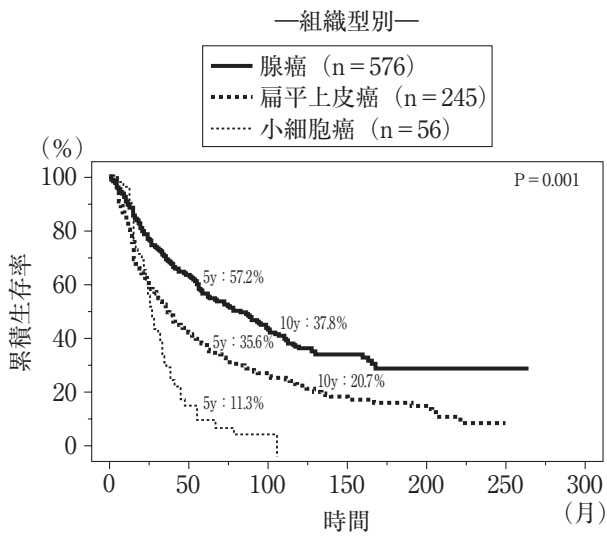


8) 検診で発見された肺癌の推移



9) 検診発見肺癌の予後





4. 乳 がん 検 診

1. 乳がん検診実績

平成22年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として市町村が把握している人数）は118,676人で、受診者数は17,726人、14.9%で前年度より1.3ポイント減少した。しかし、2年合わせた平成22年度の最終受診率は30.1%と2.4ポイント増加した。

要精検者数は1,438人、要精検率は8.11%で前年度より0.1ポイント増加した。精検受診者数は1,327人、精検受診率は92.3%と前年度より0.1ポイント減少した。この結果、乳がんが70人、がん疑いが2人発見され、発見率は0.39%となり、陽性反応適中度は5.28%であった。これは前年度に比して、それぞれ13人、0.09ポイント、1.29ポイント増加した。

要精検率を地区別でみると東部8.00%、中部6.70%、西部8.91%と圏域で多少の差がみられる。また、がん発見率は、東部0.33%、中部0.34%、西部0.49%。陽性反応適中度はそれぞれ4.5%、5.6%、5.8%と圏域での差がみられた。マンモグラフィ併用検診が始まった平成17年度から受診率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度をみるとは横ばいあるいは微増となっており、よい傾向といえる。

2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

平成22年度に発見された乳がんまたは乳がん疑い72例について確定調査を行った結果、65例（2例は再発乳がん）が確定乳がん、非浸潤がんが12例あった。そのほかに良性2例、調査中3例などがあった。

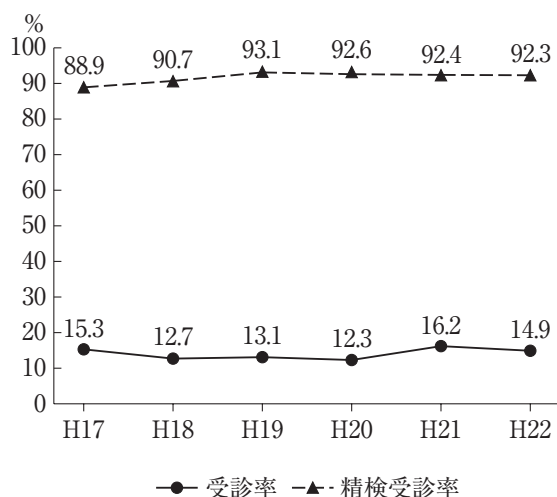
- (1) 60歳代が最も多い傾向は続いている。受診者数とマンモグラフィの特性によるものと思われる。60代、70代はマンモグラフィでの発見率が高い。40歳代ではマンモグラフィで異常がない症例が2例あり、マンモグラフィ併用検診の特性を表しているものと思われる。
- (2) 組織では浸潤がんのうち特殊型の小葉癌が5例と増加してきており、4例は触知乳癌であった。
- (3) リンパ節転移は13例で、非触知で6例、触知で7例見つかっている。リンパ節転移の有無は非触知、触知乳癌で差はなかった。
- (4) 手術61例のうち乳房温存術が44例、乳房切断術が18例であった。乳房温存術は小さいがんを見つけることが出来るマンモグラフィで多く見つかっているが、乳房切断術は視触診の段階で発見されるがんが多く、有意差があった。また、近年の傾向として腋窩郭清省略が増えているが、非触知と触知の有意差は見られなかった。
- (6) がんの性質が以前に比べ変わってきており、小さいがんでも積極的に化学療法が行われるようになってきている。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

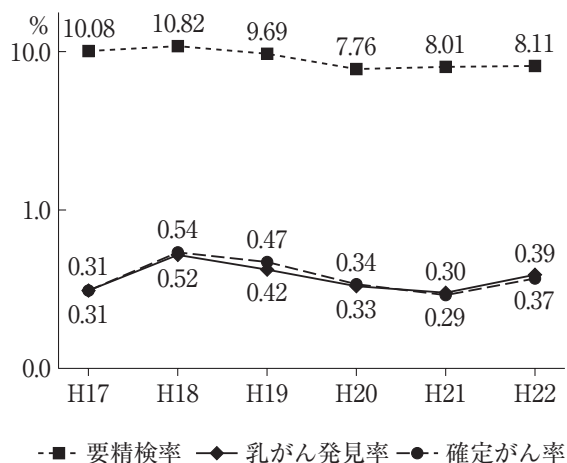
区 分		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	112,384	109,634	108,292	118,676	118,676	118,676
	受 診 者 数(人) B	17,237	13,956	14,134	14,624	19,278	17,726
	受 診 率(%) C = B/A	15.3	12.7	13.1	12.3	16.2	14.9
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	15,499	12,446	12,765	13,489	17,734	16,288
	要 精 検 者 数(人) E	1,738	1,510	1,369	1,135	1,544	1,438
	要 精 検 率(%) F = E/B	10.08	10.82	9.69	7.76	8.01	8.11
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,545	1,370	1,275	1,051	1,427	1,327
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	88.9	90.7	93.1	92.6	92.4	92.3
精 密 検 査 結 果	乳 がん の 者(人) I	53(7)	73(7)	59(8)	48(4)	57(1)	70(2)
	乳 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.31	0.52	0.42	0.33	0.30	0.39
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	3.43	5.33	4.63	4.57	3.99	5.28
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) L	53	75	67	49(52)	56	65
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.31	0.54	0.47	0.34	0.29	0.37

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- * 4 平成19年度報告より、視触診のみの受診者数を除く受診結果を計上
- * 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
平成20年度報告より、視・マンモ併用検診で発見された数、()内の数値は視触診のみ検診で発見された数を含んだ数

受診率・精検受診率の推移



要精検率・乳がん発見率・確定がん率の推移



(2) 平成22年度乳がん検診（視触診及びマンモグラフィ併用）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	対象者数 (人)	一次検診 受診者数	受診率 (%)	一次検診結果		要精検率 (%)	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
				要精検者数	異常認めず		要精検者数	要精検率 (%)	要精検者数	要精検率 (%)	要精検者数	要精検率 (%)
	a	b	c = b/a	d		e = d/b	f	g = f/b	h	i = h/b	j	k = j/b
40～44歳	4,207	2,019	48.0	220	1,799	10.90	56	2.77	146	7.23	18	0.89
45～49歳	4,460	1,673	37.5	219	1,454	13.09	49	2.93	148	8.85	22	1.32
50～54歳	6,518	2,126	32.6	186	1,940	8.75	31	1.46	134	6.30	21	0.99
55～59歳	9,630	2,023	21.0	157	1,866	7.76	30	1.48	110	5.44	17	0.84
60～64歳	12,735	3,817	30.0	287	3,530	7.52	51	1.34	221	5.79	15	0.39
65～69歳	15,529	2,277	14.7	162	2,115	7.11	31	1.36	122	5.36	9	0.40
70～74歳	18,248	2,172	11.9	106	2,066	4.88	28	1.29	71	3.27	7	0.32
75～79歳	18,215	1,115	6.1	71	1,044	6.37	15	1.35	53	4.75	3	0.27
80歳以上	29,134	504	1.7	30	474	5.95	5	0.99	22	4.37	3	0.60
計	118,676	17,726	14.9	1,438	16,288	8.11	296	1.67	1,027	5.79	115	0.65

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) l	精検受診率 (%) m = l / d	精密検査結果				乳がん 発見率(%) o = n / b	陽性反応 適中度(%) p = n / l
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん n		
40～44歳	196	89.1	89	102	0	5	0.25	2.55
45～49歳	197	90.0	99	90	0	8	0.48	4.06
50～54歳	171	91.9	85	80	0	6	0.28	3.51
55～59歳	145	92.4	75	63	0	7	0.35	4.83
60～64歳	273	95.1	167	91	2	13	0.34	4.76
65～69歳	152	93.8	76	61	0	15	0.66	9.87
70～74歳	102	96.2	66	27	0	9	0.41	8.82
75～79歳	65	91.5	45	16	0	4	0.36	6.15
80歳以上	26	86.7	13	10	0	3	0.60	11.54
計	1,327	92.3	715	540	2	70	0.39	5.28

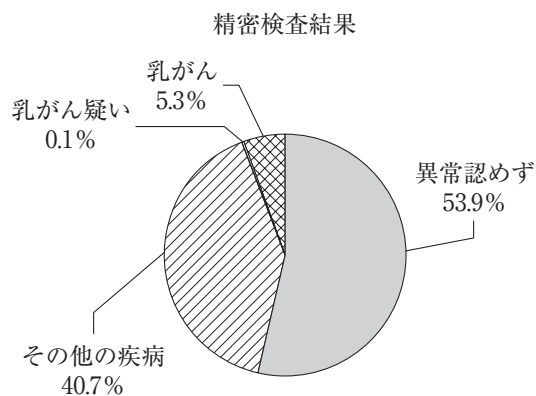
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一次検診結果		要精検率 (%) c' = b' / a'	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
		要精検者数 b'	異常認めず		要精検者数 d'	要精検率 (%) e' = d' / a'	要精検者数 f'	要精検率 (%) g' = f' / a'	要精検者数 h'	要精検率 (%) i' = h' / a'
保健事業団	7,719	500	7,219	6.48	99	1.28	382	4.95	19	0.25
病 院	7,646	763	6,883	9.98	166	2.17	521	6.81	76	0.99
診 療 所	2,107	161	1,946	7.64	29	1.38	113	5.36	19	0.90
そ の 他	254	14	240	5.51	2	0.79	11	4.33	1	0.39
計	17,726	1,438	16,288	8.11	296	1.67	1,027	5.79	115	0.65

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 (人) j'	精検受診率 (%) k' = j' / b'	精密検査結果				乳がん 発見率(%) m' = l' / a'	陽性反応 適中度(%) n' = l' / j'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん l'		
保健事業団	477	95.4	275	174	1	27	0.35	5.66
病 院	705	92.4	362	306	1	36	0.47	5.11
診 療 所	144	89.4	77	60	0	7	0.33	4.86
そ の 他	1	7.1	1	0	0	0	0.00	0.00
計	1,327	92.3	715	540	2	70	0.39	5.28



4) 平成22年度乳がん検診受診状況(視触診及びマンモグラフィ併用)

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検 率(%)	異常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	がん	有 見者	がん発見 率(%)	陽性反応 適中度(%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J	
鳥取市	35,817	1,673	3,412	5,085	14.2	169	284	453	8.91	413	91.2	239	155	1	18	174	0.35	4.4
米子市	26,968	805	3,221	4,026	14.9	43	314	357	8.87	347	97.2	156	169	0	22	191	0.55	6.3
倉吉市	10,921	632	532	1,164	10.7	47	43	90	7.73	78	86.7	43	32	0	3	35	0.26	3.8
境港市	6,828	390	468	858	12.6	28	92	120	13.99	111	92.5	61	42	0	8	50	0.93	7.2
岩美町	2,895	76	494	570	19.7	5	13	18	3.16	17	94.4	10	7	0	0	7	0.00	0.0
八頭町	4,101	703	134	837	20.4	39	12	51	6.09	46	90.2	30	14	0	2	16	0.24	4.3
若桜町	1,161	194	30	224	19.3	13	7	20	8.93	17	85.0	12	4	0	1	5	0.45	5.9
智頭町	2,086	33	240	273	13.1	2	15	17	6.23	16	94.1	6	8	0	2	10	0.73	12.5
湯梨浜町	3,551	407	133	540	15.2	22	6	28	5.19	28	100.0	15	11	0	2	13	0.37	7.1
三朝町	1,687	297	0	297	17.6	27	0	27	9.09	24	88.9	15	8	0	1	9	0.34	4.2
北栄町	3,400	588	37	625	18.4	31	4	35	5.60	32	91.4	18	9	1	4	14	0.64	12.5
琴浦町	4,436	759	136	895	20.2	41	15	56	6.26	54	96.4	34	18	0	2	20	0.22	3.7
南部町	2,608	275	252	527	20.2	8	22	30	5.69	29	96.7	18	8	0	3	11	0.57	10.3
伯耆町	2,844	342	165	507	17.8	10	17	27	5.33	25	92.6	15	9	0	1	10	0.20	4.0
日吉津村	582	112	75	187	32.1	3	13	16	8.56	16	100.0	8	8	0	0	8	0.00	0.0
大山町	4,702	278	199	477	10.1	10	24	34	7.13	26	76.5	10	16	0	0	16	0.00	0.0
日南町	1,957	251	18	269	13.7	13	6	19	7.06	19	100.0	10	8	0	1	9	0.37	5.3
日野町	1,165	158	0	158	13.6	3	0	3	1.90	3	100.0	1	2	0	0	2	0.00	0.0
江府町	967	0	207	207	21.4	0	37	37	17.87	26	70.3	14	12	0	0	12	0.00	0.0
合計	118,676	7,973	9,753	17,726	14.9	514	924	1,438	8.11	1,327	92.3	715	540	2	70	612	0.39	5.3
東部	46,060	2,679	4,310	6,989	15.2	228	331	559	8.00	509	91.1	297	188	1	23	212	0.33	4.5
中部	23,995	2,683	838	3,521	14.7	168	68	236	6.70	216	91.5	125	78	1	12	91	0.34	5.6
西部	48,621	2,611	4,605	7,216	14.8	118	525	643	8.91	602	93.6	293	274	0	35	309	0.49	5.8

【参考】

●平成22年度乳がん検診（視触診のみ）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	一 次 検 診 受診者数 (人) a	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%) c = b/a
		要 精 検 者 数 b	異 常 認 め ず	
40 ～ 44 歳	5	0	5	0.00
45 ～ 49 歳	5	1	4	20.00
50 ～ 54 歳	8	0	8	0.00
55 ～ 59 歳	1	0	1	0.00
60 ～ 64 歳	2	0	2	0.00
65 ～ 69 歳	3	0	3	0.00
70 ～ 74 歳	1	0	1	0.00
75 ～ 79 歳	0	0	0	0.00
80 歳 以 上	1	0	1	0.00
計	26	1	25	3.85

2) 精密検診結果（年齢階級別）

年 齢	精 密 検 査 受診者数 d	精 密 検 査 受診率 (%) e = d/b	精 密 検 査 結 果				乳 がん 発見率 (%) g = f/a	陽 性 反 応 適 中 度 (%) h = f/d
			異 常 認 め ず	そ の 他 の 疾 病	乳 がん 疑 い	乳 がん		
40～44歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
45～49歳	1	100.0	0	1	0	0	0.00	0.0
50～54歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
55～59歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
60～64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
65～69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
70～74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	1	100.0	0	1	0	0	0.00	0.0

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一 次 検 診 受診者数 (人) a'	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%) c' = b'/a'
		要 精 検 者 数 b'	異 常 認 め ず	
保健事業団	2	1	1	50.00
病 院	3	0	3	0.00
診 療 所	21	0	21	0.00
計	26	1	25	3.85

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 (人) d'	精密検査 受診率 (%) e' = d'/b'	精密検査結果				乳がん 発見率 (%) g' = f'/a'	陽性反応 適中度 (%) h' = f'/d'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん f'		
保健事業団	1	100.0	0	1	0	0	0.00	0.0
病 院	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
診 療 所	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	1	100.0	0	1	0	0	0.00	0.0

4) 平成22年度乳がん検診受診状況（視触診のみ）

市町村名	受診者数			要 精 検 者 数						精 密 検 査 結 果 別 人 員						
	車検診 B	施 設 検 診 C	計 D=B+C	車検診 F	施 設 検 診 G	計 H=F+G	要精検 率 (%) I = H/D	精 検 受診者数 J	精検受診 率 (%) K = J/H	異 常 認 め ず L	そ の 他 の 疾 病 M	が ん 疑 い N	が ん O	有 所 見 者 P=M+N+0	が ん 発 見 率 (%) Q = O/D	陽性反応 適中度 (%) R = O/J
米子市	0	1	1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
倉吉市	1	22	23	1	0	1	4.35	1	100.0	0	1	0	0	1	0.00	0.0
若桜町	1	0	1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
南部町	0	1	1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
合 計	2	24	26	1	0	1	3.85	1	100.0	0	1	0	0	1	0.00	0.0
東 部	1	0	1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
中 部	1	22	23	1	0	1	4.35	1	100.0	0	1	0	0	1	0.00	0.0
西 部	0	2	2	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0

(4) 平成22年度検診発見乳がん追跡調査結果

1) 登録届け出数 72

確定乳癌 65 (2例は乳がんの再発)

調査中3、良性2、その他2

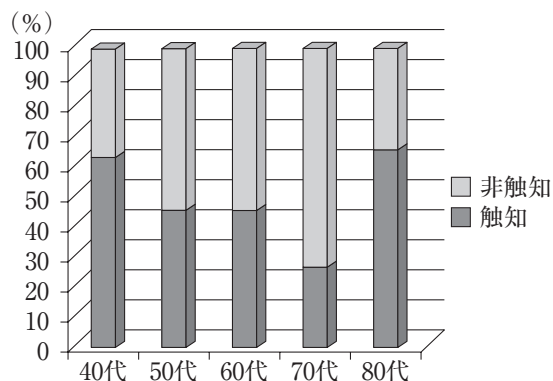
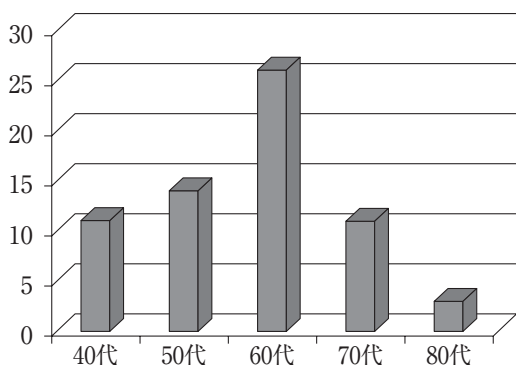
鳥取市17、米子市20、倉吉市3、境港市7

北栄町4、南部町3、八頭町2、智頭町2、湯梨浜町2、琴浦町2

三朝町1、伯耆町1、若桜町1

2) 年齢構成 平均年齢 61.5歳

平成22年度



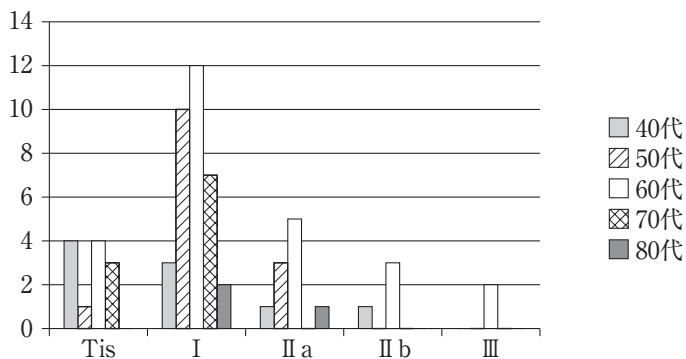
一次検診医の診断

要精検

31 (MMGで所見無し 4例: 42、49、68、72歳)

異常なし (=MMG発見) 34

3) 病期分類



4) 組織型

非浸潤癌12、

浸潤癌51、不明1

リンパ節転移の有無 13/55

MMG発見 6/29 (1—4個)

一次要精査 7/25 (1—6個) P = 0.835

5) 検診歴 不明 2

	初回検診	繰り返し検診	
MMG発見	14	19	(H17年以前は初回とした)
一次要精査	21	9	P = 0.0658
	35	28	

6) 手術術式 手術数 61

	乳房温存術	乳房切除術	なし	
MMG発見	28	5	1	
一次要精査	16	13		P = 0.0168
	44	18		

	あり	SLNB	なし	
腋窩郭清				
MMG発見	9	20	5	
一次要精査	11	17	1	P = 0.4230
	20	37	6	

7) 薬物治療

	化学療法	内分泌療法	なし
MMG発見	8 / 34	23 / 34	7
一次要精査	11 / 27	20 / 28	3
化学療法の有無	P = 0.4477		

まとめ

1. 平成22年度検診発見乳癌は65例で、非浸潤癌は12例であった。
2. 検診により再発乳癌が2例発見された。
3. 60歳代が最も多い傾向は続いている。受診者数とマンモグラフィの特性によるものと思われる。
4. 組織では浸潤癌のうち特殊型の小葉癌が5例と増加してきており、4例は触知乳癌であった。
5. リンパ節転移の有無は非触知、触知乳癌で差はなかった。両者で差があったのは術式のみであった。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は188,186人で、このうち受診者数は49,374人、受診率は26.2%で、昨年度とほぼ同様な結果であった。

このうち要精検者数は3,776人で、要精検率7.6%、精検受診者は2,848人、精検受診率75.4%であった。精密検査の結果、大腸がんは133人、大腸がん疑いは5人であった。がん発見率（がん/受診者数）は0.27%、陽性反応適中度（がん/精検受診者数）は4.7%であった。

受診者数、受診率は平成21年度に比べ僅かに増加したが、要精検率は約8%で推移しており、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度は例年と同様の結果で推移している。

要精検率は東部7.4%、中部6.5%、西部8.5%、がん発見率は東部0.296%、中部0.233%、西部0.259%、陽性反応適中度は東部5.2%、中部5.0%、西部4.0%で、圏域での差がみられなくなった。

検診機関別の要精検率は、鳥取県保健事業団6.1%、中国労働衛生協会6.2%、病院8.1%、診療所8.9%であった。

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い138例について確定調査を行った結果、確定癌132例（地域検診34例、施設検診98例）、腺腫3例、非がん2例、過形成ポリープ1例であった。そのうち早期がんは81例、早期癌率は61.4%であった。

調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様な傾向であった。

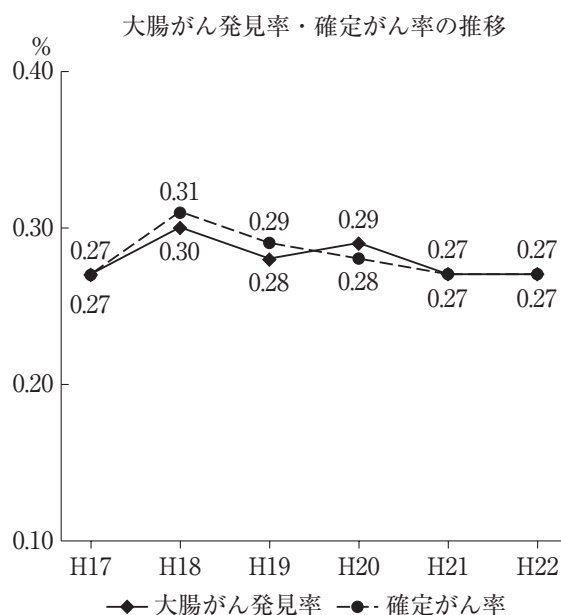
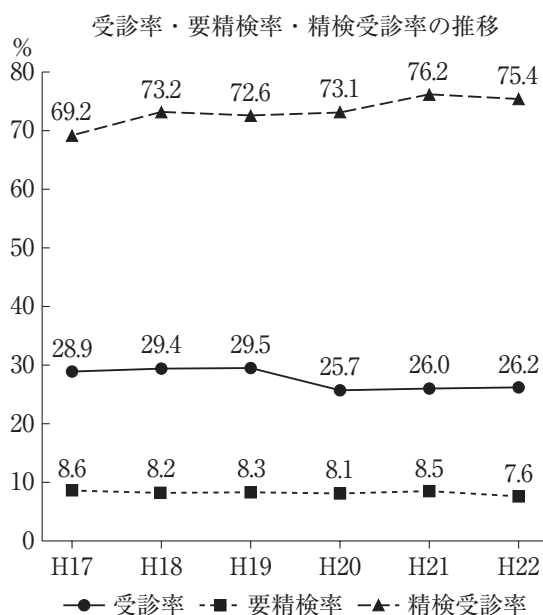
- (1) 性及び年齢では男女とも60歳以上からがんが多く発見された。
- (2) 部位では「R」と「S」が62.9%、肉眼分類では「2」31.1%であった。早期癌の肉眼分類では「Ip」「Isp」が48.2%であった。
- (3) 大きさは、10mm以下が27例（20.5%）であった。
- (4) Dukes分類は「A」が71.2%、組織型分類は「Well」が65.1%、「Mod」が28.8%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が34例（25.8%）、内視鏡下手術39例（29.5%）、内視鏡治療は55例（41.7%）であった。内視鏡下手術が年々増加傾向にある。
- (6) 逐年検診発見進行大腸がんは16例（東部5例、中部4例、西部7例）であった。

16例中、前年度の結果が要精検だったのが2件あり、1件は異常なし、1件は精検未受診であった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	180,366	176,794	175,367	188,186	188,186	188,186
	受 診 者 数(人) B	52,045	52,026	51,773	48,409	48,949	49,374
	受 診 率(%) C = B/A	28.9	29.4	29.5	25.7	26.0	26.2
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	47,569	47,782	47,468	44,497	44,780	45,598
	要 精 検 者 数(人) E	4,476	4,244	4,305	3,912	4,169	3,776
	要 精 検 率(%) F = E/B	8.6	8.2	8.3	8.1	8.5	7.6
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	3,097	3,108	3,126	2,858	3,178	2,848
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	69.2	73.2	72.6	73.1	76.2	75.4
精 密 検 査 結 果	大 腸 が ん の 者(人) I	138(6)	156(9)	145(5)	138(5)	134(8)	133(5)
	大 腸 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.27	0.30	0.28	0.29	0.27	0.27
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	4.5	5.0	4.6	4.8	4.2	4.7
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	139	159	149	136	134	132
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.27	0.31	0.29	0.28	0.27	0.27

- ※ 1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※ 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※ 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者を分母として算出
- ※ 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成22年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a			要精検者数		異常認めず		e = d/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,115	4,207	511	1,074	24.2	25.5	25.1	26	74	485	1,000	5.1	6.9	6.3
45～49歳	2,560	4,460	482	1,128	18.8	25.3	22.9	24	56	458	1,072	5.0	5.0	5.0
50～54歳	3,635	6,518	652	1,683	17.9	25.8	23.0	37	92	615	1,591	5.7	5.5	5.5
55～59歳	5,170	9,630	1,115	2,509	21.6	26.1	24.5	81	142	1,034	2,367	7.3	5.7	6.2
60～64歳	8,313	12,735	2,885	5,288	34.7	41.5	38.8	224	310	2,661	4,978	7.8	5.9	6.5
65～69歳	10,826	15,529	3,426	5,118	31.6	33.0	32.4	292	316	3,134	4,802	8.5	6.2	7.1
70～74歳	12,955	18,248	3,714	5,517	28.7	30.2	29.6	340	372	3,374	5,145	9.2	6.7	7.7
75～79歳	11,885	18,165	3,195	4,716	26.9	26.0	26.3	344	367	2,851	4,349	10.8	7.8	9.0
80歳以上	12,051	29,184	2,615	3,746	21.7	12.8	15.4	316	363	2,299	3,383	12.1	9.7	10.7
計	69,510	118,676	18,595	30,779	26.8	25.9	26.2	1,684	2,092	16,911	28,687	9.1	6.8	7.6
合計	188,186		49,374		26.2			3,776		45,598		7.6		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人)		精密検査受診率 (%)			精密検査結果								大腸がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f/d			異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		i = h/b			j = h/f		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	18	51	69.2	68.9	69.0	9	30	9	21	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	14	39	58.3	69.6	66.3	10	20	4	19	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	23	69	62.2	75.0	71.3	3	33	19	32	1	0	0	4	0.000	0.238	0.171	0.0	5.8	4.3
55～59歳	52	110	64.2	77.5	72.6	12	49	35	58	0	0	5	3	0.448	0.120	0.221	9.6	2.7	4.9
60～64歳	162	256	72.3	82.6	78.3	27	109	123	138	1	0	11	9	0.381	0.170	0.245	6.8	3.5	4.8
65～69歳	216	262	74.0	82.9	78.6	39	99	166	148	0	0	11	15	0.321	0.293	0.304	5.1	5.7	5.4
70～74歳	268	297	78.8	79.8	79.4	68	125	185	164	0	0	15	8	0.404	0.145	0.249	5.6	2.7	4.1
75～79歳	276	281	80.2	76.6	78.3	73	112	187	155	2	0	14	14	0.438	0.297	0.354	5.1	5.0	5.0
80歳以上	215	239	68.0	65.8	66.9	65	102	137	125	0	1	13	11	0.497	0.294	0.377	6.0	4.6	5.3
計	1,244	1,604	73.9	76.7	75.4	306	679	865	860	4	1	69	64	0.371	0.208	0.269	5.5	4.0	4.7
合計	2,848		75.4			985		1,725		5		133		0.269			4.7		

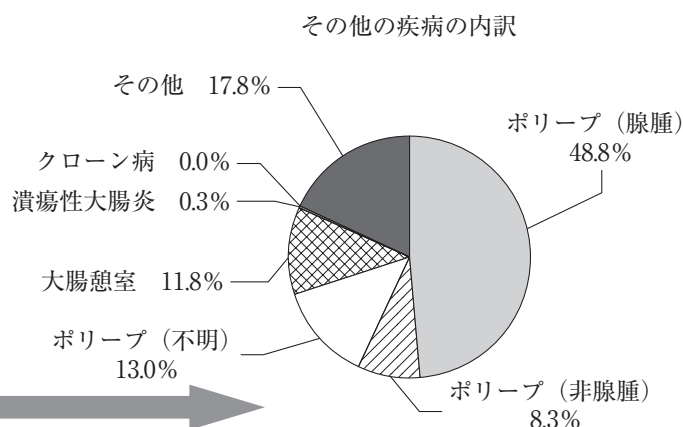
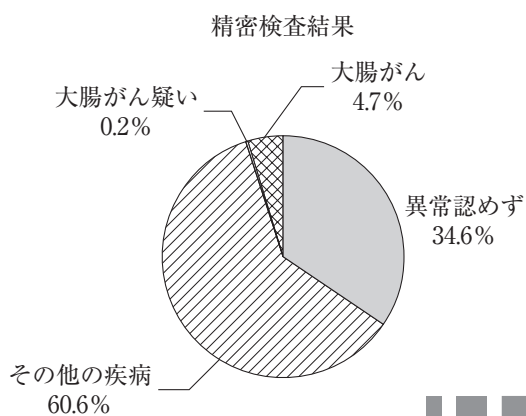
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	男	女	要精検者数 b'		異常認めず		男	女	計
			男	女	男	女			
保健事業団	7,274	11,498	553	590	6,721	10,908	7.6	5.1	6.1
中国労働衛生協会	293	437	19	26	274	411	6.5	5.9	6.2
地域検診小計	7,567	11,935	572	616	6,995	11,319	7.6	5.2	6.1
病院	3,097	4,775	290	346	2,807	4,429	9.4	7.2	8.1
診療所	7,931	14,069	822	1,130	7,109	12,939	10.4	8.0	8.9
施設検診小計	11,028	18,844	1,112	1,476	9,916	17,368	10.1	7.8	8.7
計	18,595	30,779	1,684	2,092	16,911	28,687	9.1	6.8	7.6
合計	49,374		3,776		45,598		7.6		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人) d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / d'		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	378	467	68.4	79.2	73.9	110	211	252	240	1	0	15	16	0.206	0.139	0.165	4.0	3.4	3.7
中国労働衛生協会	14	20	73.7	76.9	75.6	6	7	6	13	0	0	2	0	0.683	0.000	0.274	14.3	0.0	5.9
地域検診小計	392	487	68.5	79.1	74.0	116	218	258	253	1	0	17	16	0.225	0.134	0.169	4.3	3.3	3.8
病院	216	263	74.5	76.0	75.3	46	101	154	154	2	0	14	8	0.452	0.168	0.279	6.5	3.0	4.6
診療所	636	854	77.4	75.6	76.3	144	360	453	453	1	1	38	40	0.479	0.284	0.355	6.0	4.7	5.2
施設検診小計	852	1,117	76.6	75.7	76.1	190	461	607	607	3	1	52	48	0.472	0.255	0.335	6.1	4.3	5.1
計	1,244	1,604	73.9	76.7	75.4	306	679	865	860	4	1	69	64	0.371	0.208	0.269	5.5	4.0	4.7
合計	2,848		75.4			985		1,725		5		133		0.269			4.7		



4) 平成22年度大腸がん検診受診状況

市町村名	対象者数(人)				受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員															
	地域検診		施設検診		計		受診率(%)		地域検診		施設検診		計		要精検率(%)		精検受診率(%)		異認めず		他の疾病		がん疑い		がん発見率(%)		陽性反応適中度(%)	
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J										
鳥取市	56,203	2,526	12,120	14,646	26.1	164	993	1,157	7.9	887	76.7	318	517	4	48	569	0.328	5.4										
米子市	41,718	0	11,572	11,572	27.7	0	1,076	1,076	9.3	791	73.5	261	496	0	34	530	0.294	4.3										
倉吉市	17,326	1,851	1,039	2,890	16.7	133	81	214	7.4	148	69.2	60	79	1	8	88	0.277	5.4										
境港市	10,887	96	2,176	2,272	20.9	8	203	211	9.3	180	85.3	39	135	0	6	141	0.264	3.3										
岩美町	4,781	1,013	238	1,251	26.2	68	9	77	6.2	71	92.2	21	44	0	6	50	0.480	8.5										
八頭町	6,612	2,529	214	2,743	41.5	154	13	167	6.1	117	70.1	45	71	0	1	72	0.036	0.9										
若桜町	1,864	408	213	621	33.3	13	21	34	5.5	26	76.5	9	16	0	1	17	0.161	3.8										
智頭町	3,343	203	795	998	29.9	6	52	58	5.8	50	86.2	8	38	0	4	42	0.401	8.0										
湯梨浜町	5,856	1,219	516	1,735	29.6	76	55	131	7.6	102	77.9	52	43	0	7	50	0.403	6.9										
三朝町	2,750	612	0	612	22.3	31	0	31	5.1	25	80.6	10	15	0	0	15	0.000	0.0										
北栄町	5,699	2,052	217	2,269	39.8	108	16	124	5.5	79	63.7	34	41	0	4	45	0.176	5.1										
琴浦町	7,298	1,842	74	1,916	26.3	113	4	117	6.1	83	70.9	34	46	0	3	49	0.157	3.6										
南部町	4,188	625	639	1,264	30.2	34	50	84	6.6	71	84.5	21	48	0	2	50	0.158	2.8										
伯耆町	4,502	1,313	0	1,313	29.2	80	0	80	6.1	61	76.3	13	46	0	2	48	0.152	3.3										
日吉津村	897	286	0	286	31.9	13	0	13	4.5	8	61.5	7	1	0	0	1	0.000	0.0										
大山町	7,684	1,218	0	1,218	15.9	76	0	76	6.2	61	80.3	23	35	0	3	38	0.246	4.9										
日南町	3,182	621	59	680	21.4	48	15	63	9.3	39	61.9	12	26	0	1	27	0.147	2.6										
日野町	1,843	442	0	442	24.0	23	0	23	5.2	20	87.0	6	13	0	1	14	0.226	5.0										
江府町	1,553	646	0	646	41.6	40	0	40	6.2	29	72.5	12	15	0	2	17	0.310	6.9										
合計	188,186	19,502	29,872	49,374	26.2	1,188	2,588	3,776	7.6	2,848	75.4	985	1,725	5	133	1,863	0.269	4.7										
東部	72,803	6,679	13,580	20,259	27.8	405	1,088	1,493	7.4	1,151	77.1	401	686	4	60	750	0.296	5.2										
中部	38,929	7,576	1,846	9,422	24.2	461	156	617	6.5	437	70.8	190	224	1	22	247	0.233	5.0										
西部	76,454	5,247	14,446	19,693	25.8	322	1,344	1,666	8.5	1,260	75.6	394	815	0	51	866	0.259	4.0										

(3) 平成22年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	9	15	11	35	55	8	40	103	64	23	51	138
確定癌	9	15	10	34	53	7	38	98	62	22	48	132
腺腫	0	0	1	1	1	0	1	2	1	0	2	3
その他	0	0	0	0	1	1	1	3	1	1	1	3

表2 性及び年齢

年齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	0	0	0	1	2	3	7	4	1	18
	女	0	0	2	2	4	4	1	3	0	16
	計	0	0	2	3	6	7	8	7	1	34
施設	男	0	0	1	4	9	7	10	9	12	52
	女	0	0	2	0	6	11	6	9	12	46
	計	0	0	3	4	15	18	16	18	24	98
計	男	0	0	1	5	11	10	17	13	13	70
	女	0	0	4	2	10	15	7	12	12	62
総計		0	0	5	7	21	25	24	25	25	132

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	2	4	0	6	19	2	8	29	35(26.5)
S	4	8	7	19	19	2	8	29	48(36.4)
D	0	0	0	0	0	2	4	6	6(4.5)
T	1	0	0	1	4	0	4	8	9(6.8)
A	2	3	2	7	7	1	12	20	27(20.5)
C	0	0	0	0	2	0	2	4	4(3.0)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	1	1	2	0	0	2	3(2.3)
計	9	15	10	34	53	7	38	98	132

表4 大きさ

大きさ (mm)	地 域				施 設				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0～10	2	3	1	6	10	1	10	21	27(20.5)
11～20	2	7	5	14	23	1	9	33	47(35.6)
21～50	5	4	3	12	15	3	18	36	48(36.4)
51～	0	1	0	1	4	2	1	7	8(6.1)
不明	0	0	1	1	1	0	0	1	2(1.5)
計	9	15	10	34	53	7	38	98	132

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	24	59	83(62.9)
1	3	5	8(6.1)
2	7	34	41(31.1)
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
不明	0	0	0
計	34	98	132

表6 0型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	5	6	11(13.6)
I sp	10	18	28(34.6)
I s	1	14	15(18.5)
II a	2	8	10(12.3)
II a+ II c	3	7	10(12.3)
II b	1	0	1(1.2)
II c	0	1	1(1.2)
III	0	0	0
その他	1	4	5(6.2)
不明	0	0	0
計	23	58	81

表7 深達度

深達度	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	4	5	5	19	2	16	51(38.6)
sm	2	4	3	16	0	5	30(22.7)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	6	9	8	35	2	21	81(61.4)
mp	2	1	0	5	0	3	11(8.3)
ss	1	4	1	9	5	11	31(23.5)
se	0	1	0	3	0	3	7(5.3)
si	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	1	1	0	0	2(1.5)
計	9	15	10	53	7	38	132

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	8	12	8	37	3	26	94(71.2)
B	1	2	0	6	1	7	17(12.9)
C	0	1	1	8	2	5	17(12.9)
D	0	0	0	1	1	0	2(1.5)
不明	0	0	1	1	0	0	2(1.5)
計	9	15	10	53	7	38	132

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	9	10	6	35	3	23	86(65.2)
Mod	0	5	2	14	4	13	38(28.8)
Por	0	0	0	2	0	0	2(1.5)
Muc	0	0	1	1	0	1	3(2.3)
その他	0	0	0	0	0	1	1(0.8)
不明	0	0	1	1	0	0	2(1.5)
計	9	15	10	53	7	38	132

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	0	6	1	9	5	13	34(25.8)
内視鏡下手術	4	4	4	18	0	9	39(29.5)
内視鏡治療	5	5	4	24	2	15	55(41.7)
その他不明	0	0	1	2	0	1	4(3.0)
計	9	15	10	53	7	38	132

表11 平成22年度逐年検診発見進行癌

検診方式	地区	No	年齢	性	部位	大きさ	深達度	肉眼型	組織型	便潜血	stage	前年度検査結果				
												検診方式	便潜血	精密結果		
地域検診	中部	1	74	男性	直腸	12mm	ss(a1)	2	Well	++	Ⅲ a	地域検診	-	・	-	
		2	59	女性	S状結腸	20mm	ss(a1)	2	Mod	++	Ⅱ	地域検診	-	・	-	
		3	78	女性	S状結腸	mm	mp	1	Well	++	Ⅰ	地域検診	-	・	-	
施設検診	東部	4	77	女性	横行結腸	17mm	mp	2	Por1	++	Ⅲ a	施設検診	-	・	-	
		5	84	男性	直腸	43mm		1	Mod	-+	Ⅲ b	施設検診	-	・	-	
		6	69	女性	横行結腸	30mm	ss(a1)	2	Well	++	Ⅲ a	施設検診	-	・	-	
		7	62	女性	S状結腸	30mm	se(a2)	2	Well	-+	Ⅲ a	施設検診	-	・	(1本のみ)	
		8	81	男性	直腸	12mm	mp	1	Well	-+	Ⅲ a	施設検診	-	・	-	
	中部	9	71	男性	S状結腸	40mm	ss(a1)	2	Mod	++	Ⅲ b	地域検診	+	・	+	病院受診の結果、異常なし
	西部	10	74	女性	横行結腸	40mm	ss(a1)	2	Mod	+ -	Ⅱ	施設検診	-	・	-	
		11	69	女性	上行結腸	29mm	ss(a1)	2	Mod	++	Ⅱ	施設検診	-	・	-	
		12	74	男性	直腸	50mm	se(a2)		Well	++	Ⅱ	施設検診	-	・	-	
		13	65	女性	上行結腸	35mm	ss(a1)	2	Well	++	Ⅲ b	施設検診	-	・	-	
		14	64	女性	S状結腸	47mm	ss(a1)	1	Well	++	Ⅱ	施設検診	+	・	+	未受診
		15	65	女性	上行結腸	25mm	ss(a1)	2	Mod	+ -	Ⅲ b	施設検診	-	・	-	
		16	72	男性	直腸	28mm	mp	2	Mod	+ -	Ⅰ	施設検診	-	・	-	

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40—70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10—13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ+未受診者）+節目外（要指導者等）

2. 肝臓がん検診実績

1) 平成22年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

平成22年度は14市町村で実施し、対象者数175,670人（前年度166,667人）のうち、受診者数は2,476人（前年度3,093人）で受診率は1.4%（前年度1.9%）であった。要精検者数はHBs抗原陽性者54人、HCV抗体陽性者19人で、受診者数の2.94%であった。受診者数におけるHBs抗原陽性率は2.2%、HCV抗体陽性率は0.8%で前年度とほぼ同様の結果であった。また、要精検者73人のうち精検受診者は41人、精検受診率は56.2%（前年度50.0%）で、前年度に比べ6.2ポイント増であった。精検受診者41人のうち、肝臓がん・肝臓がん疑いはそれぞれ0人であった。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は13市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導 対象者 (人)	定期検査 受診者数 (人)	定 期 検 査 結 果			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,518	694	112 (16.1)	16 (2.3)	4 (0.6)	2 (0.3)
C型肝炎ウイルス陽性者	979	445	226 (50.8)	16 (3.6)	13 (2.9)	4 (0.9)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から平成22年度の16年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において市町村から報告があった対象者数192,315人に対し、受診者総数は116,669人、推計受診率は60.7%であり、

そのうちHBs抗原陽性者は2,846人（2.44%）、HCV抗体陽性者は3,562人（3.05%）であった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

平成7年度から平成22年度の肝臓がん検診発見がん患者の追跡調査では、確定がんは23人であった。また平成10年度から平成21年度の定期検査中に発見された確定がんは98人であった。

肝臓がん検診発見がん患者23人のうち、21人は死亡、生存中は2人であった。また、定期検査中に発見されたがん患者98人のうち、53人は死亡（他病死を含む）、生存中は38人、追跡不能7人であった。このデータから、フォローアップが非常に重要であることが分かる。

(1) 平成22年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	一次検診 受診者数 (人) a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) $e = (b + d) / a$			HCV抗体陽性率 (%) $f = (c + d) / a$		
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b		HCV抗体 のみ陽性 c		HBs・HCV ともに陽性 d		男	女	計	男	女	計
	男	女	男	女	男	女	男	女								
40～44歳	152	288	150	284	2	4	0	0	0	0	1.3	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0
45～49歳	52	115	52	114	0	1	0	0	0	0	0.0	0.9	0.6	0.0	0.0	0.0
50～54歳	80	164	77	162	1	1	2	1	0	0	1.3	0.6	0.8	2.5	0.6	1.2
55～59歳	96	163	94	158	1	5	1	0	0	0	1.0	3.1	2.3	1.0	0.0	0.4
60～64歳	261	306	247	301	12	3	2	2	0	0	4.6	1.0	2.6	0.8	0.7	0.7
65～69歳	178	174	167	169	10	3	1	2	0	0	5.6	1.7	3.7	0.6	1.1	0.9
70～74歳	137	164	134	155	1	5	2	4	0	0	0.7	3.0	2.0	1.5	2.4	2.0
75～79歳	29	36	25	36	3	0	1	0	0	0	10.3	0.0	4.6	3.4	0.0	1.5
80歳以上	49	32	47	31	1	1	1	0	0	0	2.0	3.1	2.5	2.0	0.0	1.2
計	1,034	1,442	993	1,410	31	23	10	9	0	0	3.0	1.6	2.2	1.0	0.6	0.8
合 計	2,476		2,403		54		19		0		2.2			0.8		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数 (人) a'		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) $e' = (b' + d')/a'$			HCV抗体陽性率 (%) $f' = (c' + d')/a'$			
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b'		HCV抗体 のみ陽性 c'		HBs・HCV ともに陽性 d'		男	女	計	男	女	計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							計
直 営	12	10	12	10	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保 健 事 業 団	398	558	385	550	13	7	0	1	0	0	3.3	1.3	2.1	0.0	0.2	0.1	
中国労働衛生協会	102	89	98	87	2	2	2	0	0	0	2.0	2.2	2.1	2.0	0.0	1.0	
病 院	111	156	107	153	2	3	2	0	0	0	1.8	1.9	1.9	1.8	0.0	0.7	
診 療 所	411	629	391	610	14	11	6	8	0	0	3.4	1.7	2.4	1.5	1.3	1.3	
計	1,034	1,442	993	1,410	31	23	10	9	0	0	3.0	1.6	2.2	1.0	0.6	0.8	
合 計	2,476		2,403		54		19		0		2.2			0.8			

4) 平成22年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況
 実施市町村数 = 14 未実施市町村数 = 5

市町村名	対象者数			受診者数			陽性者数				精密検査結果				人員			
	A	B	C	計	受診率 (%)	F	G	H	HBs抗原陽性率 (%)	HCV抗体陽性率 (%)	K	精受診率 (%)	M	N	O	P	Q=N+O+P	R=P/D (%)
鳥取市	39,343	198	1,002	1,200	3.1	28	11	0	2.3	0.9	24	61.5	17	7	0	0	7	0.000
米子市	66,986	0	70	70	0.1	1	1	0	1.4	1.4	1	50.0	0	1	0	0	1	0.000
倉吉市	19,457	275	0	275	1.4	6	1	0	2.2	0.4	3	42.9	2	1	0	0	1	0.000
境港市	7,261	0	185	185	2.5	3	4	0	1.6	2.2	6	85.7	4	2	0	0	2	0.000
岩美町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八頭町	11,695	112	0	112	1.0	1	0	0	0.9	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
若桜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
智頭町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
湯梨浜町	7,694	124	43	167	2.2	5	0	0	3.0	0.0	1	20.0	1	0	0	0	0	0.000
三朝町	3,398	10	0	10	0.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
北栄町	248	65	0	65	26.2	1	0	0	1.5	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
琴浦町	7,127	115	0	115	1.6	2	0	0	1.7	0.0	1	50.0	1	0	0	0	0	0.000
南部町	4,943	4	3	7	0.1	1	0	0	14.3	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
伯耆町	4,502	63	0	63	1.4	2	0	0	3.2	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日吉津村	46	5	0	5	10.9	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	1,356	22	4	26	1.9	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
江府町	1,614	176	0	176	10.9	4	2	0	2.3	1.1	3	50.0	2	1	0	0	1	0.000
合計	175,670	1,169	1,307	2,476	1.4	54	19	0	2.2	0.8	41	56.2	29	12	0	0	12	0.000
東部	51,038	310	1,002	1,312	2.6	29	11	0	2.2	0.8	25	62.5	18	7	0	0	7	0.000
中部	37,924	589	43	632	1.7	14	1	0	2.2	0.2	6	40.0	5	1	0	0	1	0.000
西部	86,708	270	262	532	0.6	11	7	0	2.1	1.3	10	55.6	6	4	0	0	4	0.000

(2) 平成7～22年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成22年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成22年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成23年10月31日現在の実人員)		定期検査結果											
	健康指導対象者		受診者数		健康指導対象者診断名						検査結果					
	健康指導対象者		受診者数		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	3	11	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	20	35	3	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
50～54歳	38	78	10	27	5	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	56	97	16	42	4	35	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
60～64歳	90	177	27	80	8	66	2	2	1	0	0	0	0	0	1	1
65～69歳	104	166	62	92	8	70	1	3	2	0	1	0	0	0	1	0
70～74歳	92	136	43	69	13	52	0	4	1	0	0	0	2	0	3	0
75～79歳	75	133	44	74	8	30	1	3	1	0	0	0	1	0	0	1
80歳以上	73	134	28	65	6	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	551	967	234	460	54	370	4	14	4	8	8	1	2	2	0	2
合計 (比率%)	1,518	694 (100)	529 (76.2)	112 (16.1)	18 (2.6)	16 (2.3)	4 (0.6)	2 (0.3)	4 (0.6)	5 (0.7)	4 (0.6)	4 (0.6)	5 (0.7)	4 (0.6)	4 (0.6)	4 (0.6)

2) 平成22年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成22年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成23年10月31日現在の実人員)		定期検査結果											
	健康指導対象者		受診者数		健康指導対象者診断名						検査結果					
	健康指導対象者		受診者数		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	2	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	6	15	1	4	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	13	14	1	4	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
60～64歳	20	57	7	25	4	15	1	0	0	0	0	0	2	1	1	0
65～69歳	35	71	10	39	3	13	0	1	0	0	1	0	0	1	0	3
70～74歳	42	126	22	67	15	23	1	2	1	0	0	0	0	0	2	0
75～79歳	68	156	35	84	21	31	0	2	0	0	0	2	3	0	0	0
80歳以上	104	243	48	97	19	41	0	1	0	0	0	0	3	0	1	0
計	291	688	124	321	64	117	0	7	1	12	4	1	3	4	2	6
合計 (比率%)	979	445 (100)	164 (36.9)	226 (50.8)	7 (1.6)	16 (3.6)	1 (0.2)	4 (0.9)	13 (2.9)	8 (1.8)	6 (1.3)	8 (1.8)	6 (1.3)	6 (1.3)	6 (1.3)	5 (1.1)

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不要であると認められた者を指す。

(3) 平成7～22年度肝臓がん検診結果

年齢階級	一次検診 受診者数(人)		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
	a		陽性者数 b		陽性率(%) c = b/a			陽性者数 d		陽性率(%) e = d/a		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	2,750	6,093	98	159	3.56	2.61	2.91	36	46	1.31	0.75	0.93
45～49歳	2,552	5,832	118	196	4.62	3.36	3.75	34	98	1.33	1.68	1.57
50～54歳	2,813	7,222	127	242	4.51	3.35	3.68	36	154	1.28	2.13	1.89
55～59歳	3,496	9,059	105	267	3.00	2.95	2.96	73	248	2.09	2.74	2.56
60～64歳	7,029	13,079	210	265	2.99	2.03	2.36	193	461	2.75	3.52	3.25
65～69歳	8,417	13,519	221	264	2.63	1.95	2.21	289	515	3.43	3.81	3.67
70～74歳	7,661	11,839	136	206	1.78	1.74	1.75	303	453	3.96	3.83	3.88
75～79歳	3,370	5,569	62	78	1.84	1.40	1.57	147	223	4.36	4.00	4.14
80歳以上	2,395	3,974	28	64	1.17	1.61	1.44	110	143	4.59	3.60	3.97
計	40,483	76,186	1,105	1,741	2.73	2.29	2.44	1,221	2,341	3.02	3.07	3.05
合計	116,669		2,846		2.44			3,562		3.05		

(4) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成22年度基本健康診査肝炎ウイルス検査より発見されたがんまたはがん疑いはなかった。

2) 平成22年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	66	男	肝癌	TAE	11.1.20	2 個	S5/6	12×12	腫瘤		C	5
2	80	女	肝癌	RFA	10.11.09	単 発	S6～7	18×18	腫瘤	無	C	48.4
3	64	女	肝癌	TAE	10.11	単 発	S6	5×5	腫瘤	有	C	26
4	75	女	肝癌	切除	08.7.30					無	C	
5	75	男	肝癌	TAE	10.12.08	>4 個	S2/5/6/7/8	20×17	腫瘤	有	C	
6	69	女	肝癌	RFA	10.4	単 発	S6	18×18		無	C	19
7	79	男	肝癌	TAI	09.10.26	2 個	S7/8	18×15	腫瘤		C	60.3
8	71	女	肝癌	切除	07.8.17	単 発	S2～3	60×60	腫瘤	有	B	148
9	85	女	肝癌	RFA	10.7	2 個	S4/7	15×15	腫瘤	有	C	16.6
10	84	女	肝癌	RFA	09.10.30	単 発	S8	15×15	腫瘤	有	C	1.9
11	65	男	肝癌	TAE	9.3	単 発	S5	24×24		有	B	7.8
12	57	男	肝癌	切除	11.1.18	単 発	S6	40×25	腫瘤	無	B	4
13	78	女	未確定・ 経過観察中 癌なし			単 発	S5	5×5		有	C	4.9
14	73	女	癌なし								C	8.7
15	63	女	肝癌	19年度報告済							C	
16	77	女	肝癌	21年度報告済							C	
17	77	女	肝癌	21年度報告済							C	
18	86	女	肝癌	19年度報告済							C	
19	84	男	肝癌	15年度報告済							C	
20	74	男	肝癌	16年度報告済							C	
21	67	男	肝癌	21年度報告済							B	
22	76	男	肝癌	19年度報告済							B	
23	71	女	肝癌	18年度報告済							B	

3) 平成7年度～平成21年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	71	男	切除	95. 8.	単発			腫瘍	有	C	
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡
4	63	女	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C	12年11か月後他病死
5	59	男	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡
11	64	男	切除	00. 2. 8	2個	S5/6, 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B	8年8か月後死亡
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B	再発、4年2か月後死亡
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死
15	74	女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C	再発、4年4か月後死亡
16	64	女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	無	C	4年5か月後死亡
18	75	男	TAE	97. 11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C	7年9か月後他病死
20	70	女		01. 7. 2						C	同月死亡
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡
22	67	男	切除	01. 11. 19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死
26	73	男	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死
28	79	女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
29	79	女	切除	03. 2. 26	単発	S3	30×30	浸潤	有	C	再発、3年6か月後死亡
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	35×35	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	無再発生存中
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	無再発生存中
33	76	男	切除	04. 3. 10	2個	S28	50×50	腫瘍	無	C	再発、3年5か月後死亡
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8	25×20	腫瘍	有	C	2年4か月後再発
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	有	C	2年10か月後再発
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	3年10か月後死亡
37	91	女	NT		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	通院中断
38	74	女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡
39	75	女	TAE	03. 10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	再発、4年2か月後死亡
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	有	C	再発、6年4か月後死亡
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中
42	78	女	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	6年後再発/切除
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後死亡
44	68	男	切除	04. 9. 13.	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	3年10か月後再発
45	72	女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡
46	62	男	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
47	86	女	TAE	不明	不明	不明	20×20	不明	有	C	予後調査中
48	73	男	切除	00. 3.	単発	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	有	B	4年3か月後再発
50	64	男	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	1年7か月後再発
51	73	女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	4年10か月後死亡
52	75	男	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	有	C	10か月後再発
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	5年5か月後死亡
54	75	男	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	4年2か月後死亡
55	87	女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	4年後他病死
56	89	女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	無	C	2年後再発. 09. 1. 29中断
57	82	女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1年9か月後他病死
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	2年11か月後再発
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	無再発生存中
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	6年3か月後再発
61	68	男	肝癌否定		(単)	S6	13×13)		無	B	生存中
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	腫瘍	有	C	1年9か月後再発
63	79	男	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡
64	87	女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	有	C	無再発生存中
65	79	男	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	無再発生存中
66	82	女	TAE	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	無	C	3年7か月後再発
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年10か月後死亡
69	81	女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	無	C	再発、13年後死亡
70	80	男	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	4年9か月後再発
71	73	女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	1年6か月後死亡
72	64	男	未治療		単発	S5	35×35		無	C	不明
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	3か月後再発

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
74	80	男女	RFA	02.9.	単発	S8		腫瘍	有	C	2年5か月後再発
75	63	女	T/R	07.5.8	単発	S8	16×16			B	予後調査中
76	73	男	M/R	03.8.5	>4個	S348	15×15		無	B	再発、8年後死亡
77	73	男	切除	05.3.14	単発	S45	42×28	腫瘍	無	B	再発、3年後死亡
78	74	男	切除	06.12.21	単発	S458	35×30	腫瘍	無	C	4年7か月後再発
79	60	女	RFA	07.7.	単発	S7	17×12	腫瘍	有	C	3年4か月後再発
80	87	女	未治療		単発	S6	66×56	腫瘍	無	C	2年7か月後他病死
81	80	女	TAE	03.3.	単発	S2/3	20×20			C	再発、8年7か月後死亡
82	77	女	TAE	08.10.7	単発	S6	50×50	腫瘍	有	C	再発、2年後死亡
83	70	男			単発	S5	12×12			B	予後調査中
84	77	女	未治療	09.3.24	2個	S58	25×25	腫瘍	有	C	1年3か月後肝不全死
85	84	女	T/P	09.9.7	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C	無再発生存中
86	72	女	TAE	09.12.18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	TAE繰り返し
87	79	女	TAE	10.11.18	2個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	無再発生存中
88	89	女	TAE	09.10.6	>4個		20×20	腫瘍		C	TAE繰り返し
89	76	女	T/R	09.10.6	単発	S3	25×25	腫瘍	有	C	無再発生存中
90	76	女	T/R	09.7.22	2個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	1年7か月後死亡
91	79	男	T/R	10.3.25	単発	S7	23×23		有	C	無再発生存中
92	85	女	切除	10.3	単発	S3	25×25	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
93	66	男	TAE		>4個	S1		浸潤	有	B	生存中
94	73	女	切除	09.10.20	単発	S5	40×40	腫瘍	無	B	無再発生存中
95	68	女	切除	09.8.21	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	生存中
96	75	男	TAE	08.1	>4個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	2年10か月後腹膜播種
97	78	男	精査中							C	
98	75	男	TAE	07.2.11	単発	S6			無	B	7か月後再発

4) 平成7年度～平成21年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	74	女	切除	95.10.24	単発	S4	55×55	腫瘍	有	C	再発、7年7か月後死亡
2	70	女	TAE	96.2.20	単発	S8	40×38	腫瘍	無	C	再発、2年1か月後死亡
3	63	女	切除	96.3.13	単発	S7	30×23	腫瘍	有	C	再発、15年1か月後死亡
4	83	男	TAE	96.7.15	単発	S4	12×12	腫瘍	無	C	再発、3年9か月後死亡
5	74	女	TAE	96.8.29	>4個	S5678	35×35	腫瘍	無	C	再発、1年8か月後死亡
6	64	女	TAE	96.10.25	>4個	S67	67×57	腫瘍	無	B	9か月後死亡
7	72	男	TAE	96.11.1	2個	S6	20×20	腫瘍	有	N	再発、1年1か月後死亡
8	70	男	PEIT	96.11.22	単発	S5	25×25	腫瘍	有	C	再発、5年2か月後死亡
9	69	男	PEIT	97.1.7	単発	S7	10×9	腫瘍	無	C	再発、6年1か月後死亡
10	73	女	TAE	97.11.17	>4個	S234	80×60	腫瘍	無	C	3か月後死亡
11	61	男	TAE	97.11.17	3個	S568	15×10	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
12	75	男	TAE	97.12.4	単発	S7/8	40×32	腫瘍	無	C	7か月後死亡
13	57	男	TAE	98.3.3	単発	S1	70×50	腫瘍	有	B	1年後死亡
14	80	女	切除	98.7.31	単発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C	9か月後死亡
15	49	男	RES	99.12.15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡
16	69	男	切除	00.12.23	単発	S8	50×50	腫瘍	無	N	再発、1年5か月後死亡
17	66	男	TAE	01.9.19	単発	S6	100×100	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
18	72	男	PEIT	04.8.2	2個	S1,5	25×25	腫瘍	有	C	再発、3年11か月後死亡
19	83	男	T/R/P	05.10.17	2個	S1,4	30×30	腫瘍	有	C	再発、3年11か月死亡
20	67	女	切除	06.08.09	単発	S8	25×25			B	無再発生存中
21	79	男	T/R	06.11.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	3年後再発
22	72	男	切除	08.4.21	単発	右葉	100×100			C	37日後死亡
23	60	男	TAE	08.4.	>4個	両葉	40×40	腫瘍	有	C	2年6か月後死亡

7. 全国がん検診実績との比較

平成21年度

(単位：人 %)

区 分		平成21年度実績 (鳥取県)	平成21年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	38,889,083	○受診者・がん発見 = (鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者 = 「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く(以下の部位も同じ)
	受診者数(人)	42,801	3,946,780	
	受診率(%)	22.7	10.1	
	受診率順位	2位	—	
	要精検者数(人)	1,300	362,471	
	要精検率(%)	7.50	9.18	
	精検受診者数(人)	1,061	288,868	
	精検受診率(%)	81.6	79.7	
	がんの者(人)	143	6,332	
	がん発見率(%)	0.33	0.16	
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数(人)	139,232	33,086,873	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(3,519,551) + (4,405,276) - (976,830)}{(33,086,873)} = 21.0$ 鳥取 $\frac{(24,207) + (26,943) - (13,466)}{(139,232)} = 27.1$
	受診者数(人)	26,943	4,405,276	
	受診率(%)	19.4 (27.1)	(21.0)	
	受診率順位	(11)位	—	
	要精検者数(人)	200	60,864	
	要精検率(%)	0.74	1.38	
	精検受診者数(人)	179	39,109	
	精検受診率(%)	89.5	64.3	
	がんの者(人)	15	3,238	
	がん発見率(%)	0.06	0.07	
肺 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	38,546,715	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値(「喀痰のみ」は除く) ※全国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診者数(人)	46,247	6,911,047	
	受診率(%)	24.6	17.8	
	受診率順位	17位	—	
	要精検者数(人)	2,122	193,631	
	要精検率(%)	4.59	2.80	
	精検受診者数(人)	1,888	172,957	
	精検受診率(%)	89.0	89.3	
	がんの者(人)	31	3,871	
	がん発見率(%)	0.07	0.06	

区 分		平成21年度実績 (鳥取県)	平成21年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数(人)	118,676	24,644,854	○「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(1,745,222) + (2,570,342) - (297,577)}{(24,644,854)} = 16.3$ 鳥取 $\frac{(14,624) + (19,278) - (1,032)}{(118,676)} = 27.7$
	受診者数(人)	19,278	2,570,342	
	受診率(%)	16.2 (27.7)	(16.3)	
	受診率順位	(7)位	—	
	要精検者数(人)	1,544	220,793	
	要精検率(%)	8.01	8.59	
	精検受診者数(人)	1,427	181,689	
	精検受診率(%)	92.4	82.3	
	がんの者(人)	57	7,447	
	がん発見率(%)	0.30	0.29	
大 腸 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	40,096,662	
	受診者数(人)	48,949	6,693,859	
	受診率(%)	26.0	16.5	
	受診率順位	5位	—	
	要精検者数(人)	4,169	480,447	
	要精検率(%)	8.5	7.18	
	精検受診者数(人)	3,178	302,311	
	精検受診率(%)	76.2	62.9	
	がんの者(人)	134	14,228	
	がん発見率(%)	0.27	0.21	

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

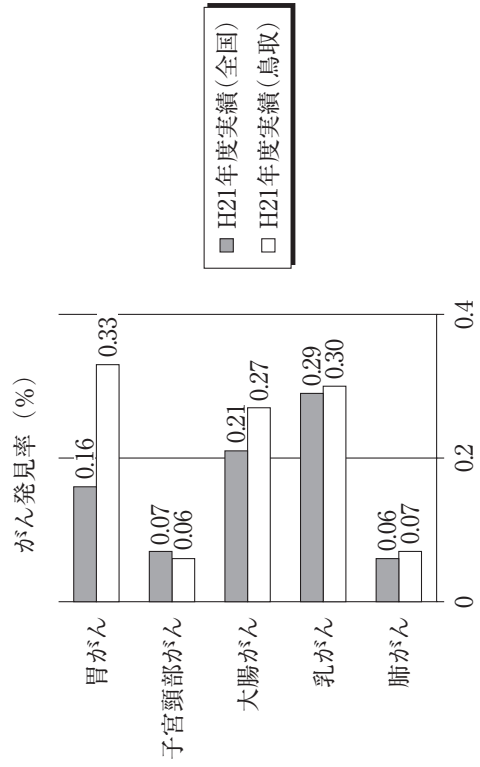
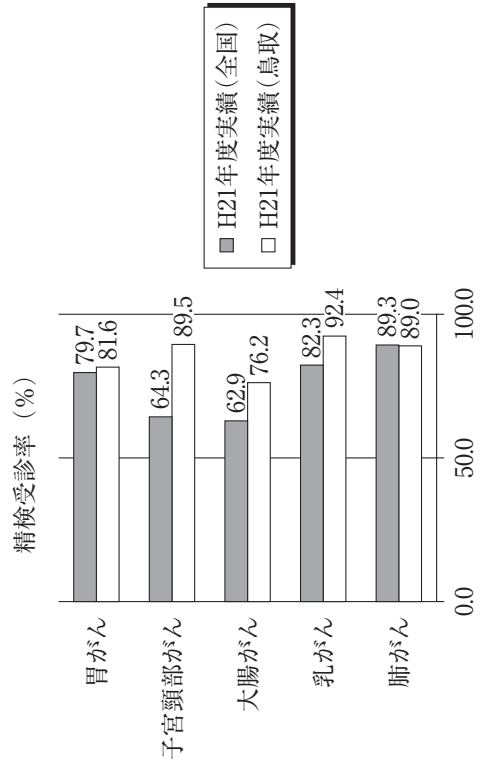
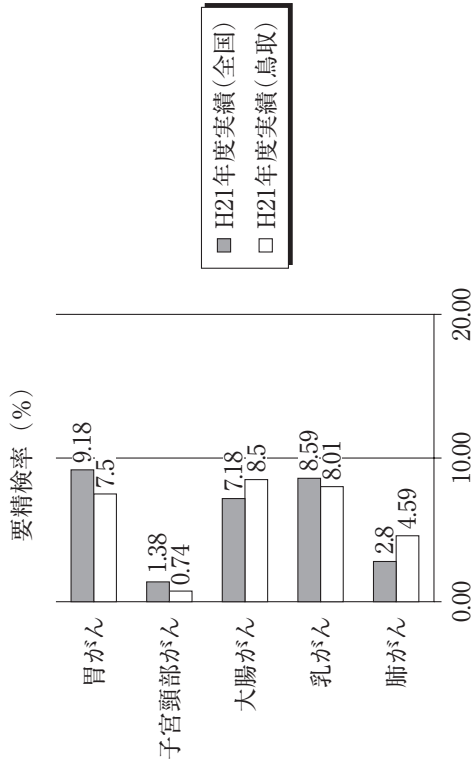
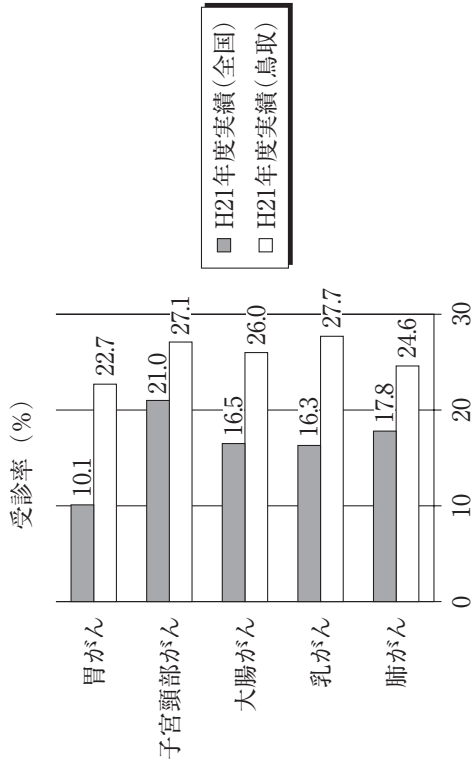
(注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。

2 受診率順位は厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値と比較した順位

3 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定

精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」

全国がん検診実績との比較 (平成21年度実績)



平成22年度

(単位：人 %)

区 分		平成22年度実績 (鳥取県)	平成22年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	39,133,907	○受診者・がん発見=(鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者=「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く(以下の部位も同じ)
	受診者数(人)	43,296	3,775,023	
	受診率(%)	23.0	9.6	
	受診率順位	2位	—	
	要精検者数(人)	1,259		
	要精検率(%)	7.80		
	精検受診者数(人)	1,049		
	精検受診率(%)	83.3		
	がんの者(人)	142		
	がん発見率(%)	0.33		
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数(人)	139,232	32,535,267	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(4,275,409) + (4,518,403) - (1,037,672)}{(32,535,267)} = 23.9$ 鳥取 $\frac{(26,943) + (28,453) - (12,705)}{(139,232)} = 30.6$
	受診者数(人)	28,453	4,518,403	
	受診率(%)	20.4 (30.6)	(23.9)	
	受診率順位	(10)位	—	
	要精検者数(人)	293		
	要精検率(%)	1.03		
	精検受診者数(人)	192		
	精検受診率(%)	65.5		
	がんの者(人)	20		
	がん発見率(%)	0.07		
肺 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	39,545,597	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値(「喀痰のみ」は除く) ※全国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診者数(人)	45,482	6,799,924	
	受診率(%)	24.2	17.2	
	受診率順位	17位	—	
	要精検者数(人)	2,004		
	要精検率(%)	4.41		
	精検受診者数(人)	1,767		
	精検受診率(%)	88.2		
	がんの者(人)	50		
がん発見率(%)	0.11			

区 分		平成22年度実績 (鳥取県)	平成22年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数(人)	118,676	24,281,227	○「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(2,502,080) + (2,492,868) - (384,343)}{(24,281,227)} = 19.0$ 鳥取 $\frac{(19,278) + (17,726) - (1,201)}{(118,676)} = 30.1$
	受診者数(人)	17,726	2,492,868	
	受診率(%)	14.9 (30.1)	(19.0)	
	受診率順位	(7)位	—	
	要精検者数(人)	1,438		
	要精検率(%)	8.11		
	精検受診者数(人)	1,327		
	精検受診率(%)	92.3		
	がんの者(人)	70		
がん発見率(%)	0.39			
大 腸 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	40,266,569	
	受診者数(人)	49,374	6,761,698	
	受診率(%)	26.2	16.8	
	受診率順位	4位	—	
	要精検者数(人)	3,776		
	要精検率(%)	7.65		
	精検受診者数(人)	2,848		
	精検受診率(%)	75.4		
	がんの者(人)	133		
がん発見率(%)	0.27			

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

(注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。

2 受診率順位は厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値と比較した順位

3 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定

精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」

4 要精検者数等については、平成20年度分から翌年度集計となったため、空欄としている

Ⅲ. 平成23年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成23年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業	名	開	催	日	時	場	所	出	席	者	内	容
胃	がん	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成24年3月10日(土)	午後4時～午後6時	米子市 西部医師会館	139名	演題：「X線・内視鏡における胃癌スクリーニングの実際」 講師：財団法人早期胃癌検診協会中央診療所所長 長浜隆司先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：山陰労災病院						
子宮がん	子宮がん	子宮がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成24年2月19日(日)	午後4時～午後5時45分	倉吉市 倉吉交流プラザ	58名	演題：「子宮頸がんは予防の時代へ—HPVワクチンとHPV-DNA検査の普及をめざして—」 講師：自治医科大学産婦人科学講座教授 鈴木光明先生 症例提示4例						
肺	がん	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成24年2月25日(土)	午後4時～午後6時	倉吉市 倉吉交流プラザ	72名	演題：「肺がんの低線量CT検診について」 講師：大阪府立成人病センターがん予防情報センター 疫学予防課長兼病理・細胞診断科 中山富雄先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立病院 中部—2例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：鳥取県立厚生病院 胸部外科						
乳	がん	乳がん検診従事者講習会及び第19回鳥取県検診発見乳がん症例検討会	平成23年8月20日(土)	午後4時～午後5時40分	倉吉市 鳥取県中部医師会館	53名	演題：「高知県のマンモグラフィ検診の現状—マンモグラフィ単独検診の精度向上とデジタルマンモグラフィ遠隔診断支援事業—」 講師：高知大学医学部外科講座外科—准教授 杉本健樹先生 症例検討 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：鳥取県立厚生病院 官再生外科						
大腸	がん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成23年7月30日(土)	午後4時～午後5時35分	鳥取市 鳥取県健康会館	89名	演題：「大腸癌を予防する」 講師：鳥取大学医学部附属病院第2内科診療科群講師 八島一夫先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—2例：米子医療センター						
肝臓	がん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成24年2月18日(土)	午後4時～午後5時50分	倉吉市 倉吉交流プラザ	80名	演題：「肝がん検診における超音波検査の役割と限界」 講師：鳥取大学医学部統合内科医学講座機能病態内科学分 准教授 孝田雅彦先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 鳥取市立病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：山陰労災病院						

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 平成24年3月10日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提供者：鳥取県立中央病院 岡 本 敏 明

症 例：78歳

検診歴：平成20年6月 車検診受診。異常なし

平成21年6月 車検診受診。異常なし

平成22年6月 車検診受診。噴門部のポリープを指摘。

経 過：平成22年9月27日上記指摘され、近医受診。GIF施行したところ、胃体上部後壁に隆起性病変を認めた。生検でGroup5であり、sm massiveを疑われたため、当院内科紹介受診。GIF・MDL・CT施行され、進行胃癌と診断。10月5日に外科紹介、11月1日に胃全摘術施行された。（病理：U Post、pType5、30×60mm、tub2>por1>tub1、pT4a（SE）、int、INFb、ly3、v3、pN0、cM0、cP0、CY0、cH0、Stage II B、pM0、pDM0、pEM0治癒切除）

検 討：平成21年の検診フィルムを再度見直すと、体上部後壁に襞集中を伴ったIIc病変を認めた。翌年のフィルムでも同部位の指摘はなく、噴門部のポリープ精査の際、偶々癌が発見できた症例であった。病変部が体部と底部との分水嶺にあり、バリウムの付着が悪い箇所であったため、発見が困難であったと考えられる。このような箇所の病変を見つけるには内視鏡による追加の検査も検討されるべきである。また、本例では技師による撮影で同部位が強調されて撮影されており、追加撮影された箇所に何らかの印をつけるといったことも検討する余地がある。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 野 口 直 哉

症 例：86歳、男性

検診歴：平成21年6月 異常なし

平成22年7月 胃体部大弯辺縁不整

経 過：平成22年9月 上記を指摘され、近医受診。上部消化管内視鏡検査で胃体部大弯に病変をみとめ、当院紹介、同年9月10日、内視鏡検査を行い胃体下部大弯～胃角部大弯にかけて1型腫瘍をみとめた。生検でpapillary adenocarcinomaと診断した。9月17日当院消化器外科で試験開腹をおこなったところ腹膜播種を多数認めた。胃がんstage IVと診断し、10月より化学療法（S-1単独）開始した。

平成24年1月 病状進行のため永眠された。

検 討：今回、平成22年7月に指摘された病変は、平成21年6月の検診時のフィルムを注意深く振り返ると病変を指摘することができた。体部大弯の湾入を正常範囲ととりやすい部分であり注意深い観察が必要だったと考えられる。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 神戸 貴 雅

症 例：68歳、男性

検診歴：平成21年 8 月 車検診で「胃角小弯辺縁不整」の指摘を受け要精検となった。

12月 当院での胃内視鏡検査で、胃角部と前庭部に良性びらんの指摘をうけた。

平成22年 8 月 車検診で「前庭部伸展不良」の指摘を受け要精検となった。

経 過：平成22年10月 当院紹介となり、精査を行ったところ、GIF・精密MDLにて胃体部後壁にIIcを認め、12月 胃部分切除術を施行した。(病理：M、28×20mm、por>sig、ly0、v0、N0、StageIA、curA)

考 察：平成21年、平成22年の検診フィルムを遡及的に検討するも、今回の病変ははっきりと指摘はできず、今回の病変は他部位の病変を疑いながら偶然発見されたことになる。結果的に深達度もmであり、根治切除が可能であったことから、見落としというにはふさわしくないが、精密胃透視検査では、はっきりと病変が描出されていることより、より精度の高い検診胃透視が望まれる。

2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 平成24年2月19日（日） 午後4時～午後5時45分

場 所 倉吉交流プラザ

症例検討：鳥取大学医学部産婦人科講師、板持弘明先生の進行により施設検診3例、鳥取県保健事業団（車検診）1例の症例検討が行われた。

平成23年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
							組織診断	進行期分類	TMN分類	
症例1	31歳	岩美町	H20. 5. 16	鳥取県保健事業団	class II	鳥取県立中央病院	carcinoma in situ	0期	pT0pNxMx	鳥取県立中央病院
			H21. 11. 16	鳥取県保健事業団	class II					
			H22. 11. 17	鳥取県保健事業団	ベセスダ判定判定可 SCC (MIC)					
症例2	34歳	米子市	H19. 12. 15	中曽産婦人科医院	class II	鳥取大学医学部附属病院	carcinoma in situ	0期	Tis NxMo	鳥取大学医学部附属病院
			H20. 12. 6	中曽産婦人科医院	class II					
			H21. 12. 12	中曽産婦人科医院	class II					
			H22. 11. 27	中曽産婦人科医院	ベセスダ判定判定不能					
			H22. 12. 10	中曽産婦人科医院	ベセスダ判定判定可 HSIL (severe dysplasia)					
症例3	37歳	米子市	H20. 7. 1	井田レディースクリニック	class II	井田レディースクリニック	Squamous cell carcinoma	I b1期	pT1b1pN0pM0	鳥取大学医学部附属病院
			H22. 7. 10	井田レディースクリニック	ベセスダ判定判定可 ASC-H (severe dysplasia疑)					
症例4	48歳	鳥取市	H20. 1. 7	鳥取市立病院	頸部：class II	県立中央病院	endometrial adenocarcinoma (G1)	I b期	pT1b1pN0pM0	鳥取県立中央病院
			H20. 7. 15	タグチレディースクリニック	頸部：class II 体部：陰性					
			H23. 1. 12	タグチレディースクリニック	頸部：ベセスダ判定判定可 NILM 体部：疑陽性					

3. 肺がん検診症例研究会

日時 平成24年2月25日（土） 午後4時～午後6時

場所 倉吉交流プラザ

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取市立病院 池田 秀明

症例：59歳 男性

既往歴：特になし

喫煙：current smoker 20本/日×39年間

血液生化学検査：異常なし

肺機能：WNL

現病歴：2011. 3. 2 検診胸部単純X線（以下CXR）にて右上肺野の腫瘤影を指摘され、当院内科で精査し肺癌診断後外科紹介、手術を施行した。

経過：①CXR（前々回 3年前）の診断は異常なしであり、再度見直すが異常所見は認めなかった。

②CXR（前回 1年前）の診断は異常なしであるが、右第1肋骨肋軟骨の石灰化を疑う陰影が指摘できた。

③CXR（今回）で、同部陰影が濃く増大する所見にて右上肺野の腫瘤影の診断で精査となった。胸部HRCTで右上葉S1に約4cmの多房性ブラがありその周囲にGGOを伴い、尾側に約1.5cmの充実性結節を認めた。PET/CTで同結節部のSUVmax delay3.0のFDG集積を認めたが、他臓器、肺門・縦隔リンパ節へのFDG集積はなかった。肺癌を疑いCTガイド下針生検を施行し腺癌の診断、c-stageIA（T1aN0M0）として手術（右肺上葉切除術 ND2a-1）を施行した。

病理結果は混合型腺癌で、充実性結節部から連続的にブラ壁に沿って肺胞置換性に進展する像が認められ、最大径4.3cm、p11、n0にてp-stageIB（T2aN0M0）であった。

考察：結果としてやや進行してからの診断、治療となったが、前回1年前に診断していればstageIAで治療できた可能性がある。

肋軟骨の石灰化は普段よく見かける所見である。第1、2肋骨に起こり易く対称性のものが多いが、非対称性にまた肋骨の幅を超えて膨隆することもあるため、石灰化の左右差のみで全て異常影として判定することは、精度低下を考慮すると躊躇される。本症例のような癌の発生部位・発生形態の場合特に、肋軟骨の石灰化像と酷似する像を呈するものと思われ、1年後の比較読影による診断となったことにCXRの限界を感じるころである。しかし真の石灰化で隠された結節陰影ではなく、腫瘍による陰影であったことを考えると、前回CXRで異常影として指摘できた可能性はあり、さらに経験を積み重ねつつ読影力向上のための努力は必要であると思われる。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 吹野 俊介

症例1：60歳代、男性

既往歴：高血圧

生活歴：たばこ 20本×30年、50歳より禁煙

現病歴：毎年検診を受けていたが、異常なしであった。平成23年7月の検診で胸部異常陰影を指摘され、当院紹介となった。

検査所見：CEA：7.7と高値、他に異常なし

呼吸機能：FVC 3.5L (103.8%)

FEV1.0 2.46L (70.3%)

胸部Xpの比較：平成20年、21年の胸部Xpは異常なしであるが、平成22年の胸部Xpは心陰影内に血管陰影の途絶と肥厚を認めた。残念ながらこの異常陰影を見落としていた。そして、平成23年の胸部Xpでは強い胸膜陥入像を伴う3cm大の腫瘍陰影を心陰影内に認めることとなった。直ちに手術となった。平成23年7月、術中迅速診断を併用して手術施行した。迅速診断で腺癌の診断を得た。胸腔鏡下左下葉切除術、ND2a-2リンパ節郭清を行った。左S10に3.3cm大の腫瘍を認めた。中分化の乳頭腺癌、p-T2aN0M0、pI0d0e0pm0(pI0)、p-1B期であった。またmicropapillary patternを呈しており術後補助化学療法を行った。経過良好。

症例2：60歳代、男性

既往歴：糖尿病（コントロール不良、HbA1C：8.0）

生活歴：たばこ 40本×44年

現病歴：平成21年の検診は異常なしであった。平成22年の検診は受けなかった。平成23年9月の検診で胸部異常陰影を指摘され、当院紹介となった。

検査所見：腫瘍マーカーその他に異常なし。

呼吸機能：FVC 4.43L (117%)

FEV1.0 2.93L (66.1%)

胸部Xpの比較：平成21年の胸部Xpは異常なしである。平成23年の胸部Xpでは左中肺野に3cmを超える異常陰影を認める。

CTにて左S6の4cm大の腫瘍で、CTガイド下肺生検で腺癌の診断を得て、平成23年12月に手術となった。

胸腔鏡下左下葉切除、ND2a-2リンパ節郭清を行った。

左S6に4cm大の腫瘍、中分化の乳頭腺癌でp-T2aN0M0、pI0d0e0pm0(pI0)、p-1B期となった。

またこの症例もmicropapillary patternを呈しており、術後補助化学療法を行った。経過良好である。

考察：2例とも理由の違いはあるが1年間の空白期間があり、腫瘍径が3cm以上となった症例です。症例1の心陰影内の血管走行の乱れや肥厚・途絶に注目して異常を指摘すべき症例であった。また症例2は平成22年に検診を受けていないことが誠に残念で、平成22年の時期に3cmの腫瘍を発見できた可能性は高い。2つの症例とも1B期であったが、鳥取県立厚生病院の肺癌手術例で1A期の5生率は、83.9%、1B期は67.9%（2001年～2010年）となり、1B期では5生率が16%低下し、大きな差となっている。

まとめ：1. 検診は毎年受けてこそ効果がある（特に喫煙歴のある人は毎年受けるべきである）。

2. 心陰影内に異常陰影は見落としがちになるので血管走行に注目してさらなる注意が必要と考える。

見落とし症例は、1年後には病期が1段階進んで1A期から1B期となり、5生率が16%低

下する。1A期での肺癌の発見が検診の意義を高めることとなる。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 藤岡真治

症 例：87歳、女性

主 訴：体重減少（4 kg/年）、胸部異常影

既往歴：高血圧

生活歴：喫煙歴なし

現病歴：2005年検診で異常指摘され、胸部CTでは病変あり、気管支鏡細胞診でclass IIにて経過観察となった。翌年のCTでは変化なく、その後2年間は経過観察となった。2011年になり体重減少があったため近医受診、気管支鏡細胞診で肺腺癌の診断で当科紹介となった。

臨床経過：入院時の胸部X線では、左下肺野で心陰影に重なって約5 cm大の腫瘤影を認めた。胸部CTでは左S10に38×28mmの充実性腫瘤影を認めた。腫瘤は内部濃度不均一で気管支の拡張を認め、周囲にはすりガラス陰影が見られた。PET-CTでは、早期相でSUVmax；3.0、後期相で4.1の集積があり、肺門部・縦隔リンパ節に集積はなかった。臨床病期cT2aN0M0 stageIBにて完全胸腔鏡下左肺下葉切除術+リンパ節郭清術を施行した。腫瘍はS10からS6方向に胸膜に沿って進展しており、当初予定していた底区切除では癌が遺残する可能性が高く、結局下葉切除となった。腫瘍径は105×40×30mmと大きな乳頭型腺癌で、病理病期はpT3N0M0 stageIIBであった。

4. 乳がん検診症例研究会

日時 平成23年8月20日(土) 午後4時～午後5時40分

場所 鳥取県中部医師会館

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 田中裕子

症例：石灰化の精査で良性とされ、2年後の検診で乳癌と診断された症例

70歳、女性

平成20年検診マンモグラフィー(MMG)石灰化病変にて要精査となり受診。精査の結果良性腫瘍に伴う良性石灰化と診断され、9ヶ月後再診し終診。平成22年再度石灰化病変にて要精査となり受診。MMGにて左MLOのM領域、CCの中央に不整形・一部線状の石灰化を認めた。平成20年と比較し数が増加・範囲が拡大し、区域性であり、カテゴリーVと判定。超音波では腫瘍を認めず、乳腺内に点状高エコーを伴った低エコー域を認めた。細胞診class V。ダイナミックCTにて左乳房A領域に不整形に濃染される1.5cm大の結節影を認め、左腋窩には1cm大の扁平なリンパ節を認めた。左乳癌(T1N0M0、Stage I)と診断し左乳房部分切除+左腋窩郭清施行。病理組織はDCIS(comedo type)、ER(-)、PgR(-)。残存乳房に対し放射線治療を施行し、現在経過観察中。MMG石灰化病変の形状・分布の判定を厳密に行い、診察所見を総合的に捉え整合性を追及し、疑問がある場合は厳重な経過観察や追加検査が必要である。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部器官再生外科学 石黒清介

症例：術後1ヶ月で再発を来した悪性葉状腫瘍の1例

52歳、女性

平成19年夏頃より右乳房腫瘍を自覚していた。平成20年7月初診。右BD領域に2cm大の腫瘍を触知し、超音波では2.4cmの境界明瞭な腫瘍であった。コアニードルバイオプシーで乳腺症と診断され経過観察となった。平成23年5月、腫瘍増大のため他院より紹介。5cmの分葉状腫瘍で細胞診では良性であった。5月20日全身麻酔下に手術を施行。術後診断は良性の葉状腫瘍と診断された。術後4週目、硬結と痛みで受診、感染、出血を疑い経過を見るも改善せず、細胞診を施行したところ、悪性腫瘍と診断された。乳房切除術+センチネルリンパ節生検を行ったが、術後永久標本でセンチネルリンパ節に微小転移が判明し、腋窩郭清を追加した。その1ヶ月後、胸壁に再々発。大胸筋合併切除を行い、イフォマイドを中心とした化学療法を追加して経過観察中である。急速増大する線維腺腫は葉状腫瘍を疑い、周囲も含めて完全に切除すべきである。特に40歳以上の線維腺腫は要注意である。

5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 平成23年7月30日（土） 午後4時～午後5時35分

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 柳 谷 淳 志

症 例：70歳、女性

現病歴：平成20年の大腸癌検診にて便潜血陽性指摘あり、同年11月に下部消化管内視鏡検査を受けるとも盲腸のIsポリープのみと経過観察となる。平成21年12月の大腸癌検診でも便潜血陽性（+ / +）となるも、昨年検査してあり、検査を延期、近医で平成22年5月26日に下部消化管内視鏡検査したところ横行結腸に60mm大のLSTを指摘された。

病 理：横行結腸、62×37mm LST-G (Is+IIa) Adenoma

最も異型度の高い所では高分化型腺癌との鑑別が問題となるが、軽度～高度異型の管状絨毛状腺腫。

検 討：1年半前に下部消化管内視鏡検査を受けているが、横行結腸の60mm大の病変は指摘できず。横行結腸中央、屈曲の裏側に病変は位置していた。挿入時にも注意をしていれば気がつく可能性あり、また抜去時も屈曲部、ひだ裏の病変を意識した観察が必要と考えられる、逆に観察を怠ると大きな病変も見逃すリスクがある教訓深い症例であった。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 野 口 直 哉

症 例：78歳、女性

主 訴：なし

家族歴：特記事項なし

既往歴：特記事項なし

現病歴：平成18年から平成21年まで大腸癌検診で異常を指摘されなかった。

平成22年の大腸癌検診で陽性となり、当院消化器内科受診した。

同年7月30日、当科で内視鏡検査をおこなったところS状結腸に1cm大の1型隆起性病変をみとめた。

内視鏡検査、注腸検査をおこない、mp浸潤がうたがわれ、腹腔鏡下S状結腸切除をおこなった。

手術所見：平成23年10月 腹腔鏡下S状結腸切除

病理所見：Adenocarcinoma、tub1>tub2、mp、int、INFb、ly1、v1、pm(-)、dm(-)、n0 stage I

検 討：毎年、検診を受けていて、完全切除できた症例であった。

〔西部症例〕

提出者：米子医療センター 片山 俊介

症例1：60才代、女性

主訴：無症状

既往歴：高血圧・脂質異常症

家族歴：母 大腸癌

現病歴：平成19年度・平成20年度検診 便潜血陰性。平成21年度検診 便潜血+ / +となり、大腸精査目的に受診された。

検査所見：大腸内視鏡検査で横行結腸の肝彎曲部に全周性狭窄を来す2型腫瘍を認め内視鏡通過不可能。X線造影検査では同部にapple-core signを認めた。

治療：右半結腸切除術施行、Tubular adenocarcinoma (tub2) pType 2 (4×5.8cm) pT2 (SS)、ly0、v0、INFb、pN0、pPM0、pDM0、pStage II

症例2：80才代後半、男性

主訴：血尿（疑い）

既往歴：糖尿病・脂質異常症・痔（30年前手術）

家族歴：特記事項なし

現病歴：平成20年度検診 便潜血- / -。8月下旬赤色尿を自覚。平成21年度検診 便潜血+ / +。および尿潜血+ + +。9月3日大腸精査目的に受診された。同日泌尿器科も受診された。

検査所見：大腸内視鏡検査で横行結腸の肝彎曲部に全周性狭窄を来す2型腫瘍を認め内視鏡通過不可能。X線造影検査では同部にapple-core signを認めた。

治療：右半結腸切除術施行、多発肝結節（9×6mm）あり、サンプリングにて転移と診断。

Adenocarcinoma (tub2>tub1>>muc)、

pType3 (6.8×3.7cm) pT2 (SS)、ly1、v1、INFa、pN1、pH1、pStageIV

術後化学療法：UFT内服していたが、平成22年6月肝転移増悪しゼロダへ変更

術後経過：一方泌尿器科で膀胱鏡勧められるも血尿が自然消失したことより拒否された。平成22年6月血尿再発し、泌尿器科再診。膀胱鏡にて膀胱癌（SqCC>UC）と診断。7月7日姑息的手術としてTUR-Bt施行。本来なら放射線治療適応だが、大腸癌による予後も3～6ヶ月程度と予想され経過観察となった。10月膀胱癌増悪あり再手術勧められるも拒否。平成23年1月水腎症・腎後性腎不全となり永眠された。

考察：前年度便潜血陰性の進行大腸癌二例を経験した。いずれも右側結腸癌であり、一例は肝転移も伴っていた。症例1のように家族歴のある場合、便潜血検査のみで判定するのではなく大腸内視鏡を勧めるようにしてはどうかと考える。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成24年2月18日(土) 午後4時～午後5時50分

場 所 倉吉交流プラザ

東・中・西部地区より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 満田 朱理
鳥取市立病院 大石 正博

症 例：36歳、女性

主 訴：心窩部痛

家族歴：父；肝硬変にて50歳代に死亡、姉2人HBVキャリア

生活歴：飲酒なし、喫煙なし

既往歴：18歳時(入社時)にHBsAg陽性を指摘

現病歴：2年前に近医より定期フォローを勧められていたが、会社の検診では肝機能正常であり、医療機関での肝臓の定期検査は受けていなかった。他院婦人科にて不妊治療中(平成2X年5月人工授精失敗)、平成2X年5月連休明けより心窩部痛あり、6月6日近医受診。超音波検査にて腫瘍あり、当科紹介となる。

入院時検査所見：WBC 4400/ μ l、Hb 10.5g/dl、Plt 23.8万/ μ l、T.bil 1.0mg/dl、D.bil 0.3mg/dl、AST 76IU/l、ALT 74IU/l、LDH 294IU/l、ALP 355IU/l、 γ -GTP 135IU/l、TP 6.6g/dl、Alb 3.8g/dl、ChE 210IU/l、T.Chol 166mg/dl、FBS 90mg/dl、CRP 0.4mg/dl、ZTT 3.5KU、PT 77%、HBsAg (+)、HBeAg (-)、HBeAb (+)、HBV DNA 3.5logc/ml、AFP 103000ng/ml、PIVKA II 134070mAU/ml、Child-Pugh A

画像検査：肝ダイナミックCT；肝右葉ほぼ全域を占拠する巨大腫瘍を認め、門脈本幹・左右一次分枝・UP・P2・P3に至る広範な腫瘍栓を伴っていた。少量右胸水あり。脾腫あり。T4 (Vp4) N0 M0、stage IVAと診断した。

経 過：初診時よりバラクルードの内服を開始した。若年のこともあり、鳥取市立病院外科にコンサルトした。同院より神戸大学肝胆膵外科へ紹介となり、肝動注化学療法(Hepatic arterial infusion chemotherapy；HAIC)のうちの一つである、経皮的肝灌流化学療法(Per-cutaneous isolated hepatic perfusion；PIHP—両葉多発のstageIVA症例で、奏効率64.5%、5年生存率20%との報告—)を受けるために転院となる。転院後PIHP(DXR 180mg、MMC 50mg)を6月22日に受けたが、PDであった。鳥取市立病院へ再度転院し、動注リザーバーを留置し、CDDP(100mg)によるHAICを1回/月にて4回(8/7、9/8、10/3、11/1)施行したが、無効であった。反復する治療により肝予備能低下し、Child-Pugh AからCとなる。その後全身状態悪化し、11月19日に永眠された。当科初診から約5か月後であった。

考 察：HBsAg陽性患者は年齢を問わず、肝機能異常の有無に関わらず、肝細胞癌の発生を念頭においた定期検査が必要である(腹部超音波、肝機能、ウイルス量、腫瘍マーカー)。この症例においても定期検査がなされていたならば癌死を免れたかもしれない。他科における術前検査や人間ドックでHBsAg陽性が判明した場合には、一度は肝臓専門医へコンサルトとしてもらい、しっかりと患者指導を行うことが重要である。

また、この症例においては、肝予備能がまだ良好である間に肝動注化学療法から分子標的

薬（ソラフェニブ）へ切り替えも考慮するべきであったかもしれない。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 万代真理

肝動注療法が著効した高齢者肝細胞癌の一例

鳥取県立厚生病院 消化器内科、内科

万代真理、斧山巧、永原天和、山本了、野口直哉、佐藤徹、秋藤洋一

症 例：87才 女性

主 訴：肝腫瘍精査加療目的

現病歴：近医で高血圧にて加療中、スクリーニングの腹部超音波検査で肝腫瘍を認め、平成21年11月当科紹介となる。

既往歴：高血圧

生活歴：飲酒、喫煙なし

入院時現症：155cm、54.2kg、BMI 23、結膜 貧血・黄疸を認めず。腹部 平坦、軟、圧痛なし。下腿浮腫なし。

入院時検査所見：WBC 4210/ μ l、RBC 3.90×10^4 / μ l、Hb 11.7g/dl、Plt 8.1×10^4 / μ l、PT 76.9%、HPT 62.9%、T.P 7.0g/dl、Alb 3.4g/dl、T.Bil 1.1mg/dl、AST 33IU/L、ALT 21IU/L、ALP 395IU/L、 γ -GTP 31IU/L、HBsAg陰性、HBsAb陰性、HBc抗体陽性、8.6s/co、HCV-Ab陰性、AFP 1540KIU/ml、PIVKA-II 1910mAU/ml

肝dynamicCT：後区域を中心に門脈右枝に腫瘍塞栓を伴うび漫性の腫瘍を認め、動脈早期相では濃染性は乏しかったが、平衡相ではwash outを呈しており、肝細胞癌と考えられた。肝左葉の肝内胆管拡張を認めた。

EOB-MRI、MRCP：肝細胞相で腫瘍部は造影剤の取り込み低下を認め、また左葉肝内胆管拡張を認めるも、腫瘍の胆管浸潤を疑う所見はなく、胆管沿いに微小嚢胞が多数認められ、peribiliary cystと考えられた。

肝血管造影：血管造影では肝後区域を中心に腫瘍濃染を認め、Epirubicine 30mg+MMC 6mg+cisplatin 25mg+5-FU 500mgを右肝動脈：固有肝動脈= 3：1の配分で動注を施行した。

治療経過：肝動注療法を計3回施行し、4ヶ月後のCTでは、腫瘍の縮小を認めた。再度動注を施行し、さらに3ヶ月後（初診時より7ヶ月後）には、腫瘍はさらに縮小し、後区域の萎縮を認めた。腫瘍マーカーは2回の動注後陰性化しており、計4回の動注療法を行い、約3年後の現在に至るまで、無治療で再発なく経過している。治療に伴う副作用としては、2回目の動注後に尿路感染を生じた以外は特に重篤な副作用はなく、現在T.Bil 0.9g/dl、Alb 2.6g/dl、PT 80%、BUN 24mg/dl、Cr 1.1g/dlとアルブミン低下を認めるほか、肝腎機能の悪化はなく経過している。現在は、十二指腸下降脚に異所性静脈瘤を認めること、また肝性脳症の発症により2回入院加療を行っていることが問題点であるが、肝細胞癌については無再発生存中である。

考 察：肝細胞癌の初発年齢は70才以上が約半数とされており、高齢癌患者に対して治療を検討する場合、①癌腫がその患者さんの生命予後を規定するか、②生命を全うするまでに癌に起因する苦痛や障害が生じうるか③癌の治療に耐えうるかの3点を評価することから始まるとされている。一方、老化現象には個人差が多く、暦年齢のみで判断することは難しく、老化現象を総合的に判断する方法として包括化老化現象評価を行うことが推奨されている。今回門脈腫瘍塞栓を伴う肝細胞癌に対して動注を施行し、副作用なく腫瘍の制御をするこ

とができた。

高齢者の肝細胞癌では非B非Cからの発癌の割合が増えていることも問題で、本症例でもHBs抗原、HCV抗体は陰性であった。

結 語：門脈腫瘍栓（Vp3）を伴う肝細胞癌に対して肝動注療法が著効した一例を経験した。高齢ではあったが、特に大きな副作用なく治療を継続することができ、予後の改善につながったと考えられた。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 西 向 栄 治

HBs抗体陽性のHBVキャリアーに発癌した細胆管細胞癌の1例

山陰労災病院病院

消化器内科 ○西向荣治、岸本幸廣、角田宏明、向山智之、神戸貴雅、謝花典子、古城治彦
外 科 豊田暢彦、野坂仁愛
放射線科 井隼孝司

B型慢性肝疾患で、HBs抗原が陰性化する症例は、稀であるが、頻度は年間数%と報告されている。今回15年間通院中の肝機能正常例で、HBs抗原が陰性化、HBs抗体が陽性になった後の肝臓がん発症を経験したので報告する。

症 例：74歳、男性。

15年前からHBVキャリアーとして、半年ごとに外来検査を行っていた。平成23年5月の定期腹部超音波検査で、肝S8に4cm大の八頭状の内部が不均一なやや高エコー腫瘤像を指摘された。AFP、PIVKA-II、CA19-9、CEAいずれも陰性。トランスアミナーゼ正常、HBs抗原陰性、s抗体強陽性、HBc抗体64.7%（200倍希釈）、HCV抗体陰性。造影CTでは、肝S8に境界やや不明瞭な4cm大の腫瘤を認め、早期相で辺縁、内部が不均一な濃染を呈し、遅延相で造影効果の遷延を認めた。腹部血管造影では、Capillaryからvenous phaseにS8/4腫瘤に一致した淡い濃染を認めた。また、CTA早期相で、内部の不均一な濃染と軽度のAPshuntを、また、CTA後期相で、腫瘤に薄いcorona様濃染、末梢側肝実質に楔形濃染を認めた。以上から、肝内胆管細胞癌、あるいは、混合型肝癌（Vp0、stage2）が疑われた。また、中部食道に5cm長の早期食道癌も認めたため、転移性肝病変を否定する目的で、21G majima needleで、針腫瘍生検を行った。術前、中分化型腺癌と診断され、胆管細胞癌と診断された。肝S4/8部分切除が行われた。術後病理で、細胆管細胞癌（cholangiolocellular carcinoma：CoCC）と診断された。

考 察：細胆管細胞癌（細胆管癌）は、稀な疾患で、術前診断が容易でなく、治療法、予後など一定の見解が得られておらず、現時点で不明な点が多い。

結 語：B型健常キャリア、慢性肝疾患ではHBs抗原が陰性化し、HBs抗体が陽性になっても肝臓がんを発症する可能性があるため、生涯にわたり定期フォローが必要と考えた。

7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	13	23	365	6	19	125	29	4,792	695	48	4,834	1,185
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	4	13	62	12	100	153	6	30	86	22	143	301
乳 がん	2	18	60	1	5	22	1	4	31	4	27	113
大腸がん	8	16	275	4	4	54	28	119	688	40	139	1,017
肝臓がん	5	8	229	5	15	93	3	8	42	13	31	364
合 計	32回			28回			67回			127回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857—27—5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
子宮がん検診実施（一次検診）医療機関	H24. 4. 1～H25. 3. 31	H24年度中	
肺がん一次検診医療機関	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	
乳がん一次検診医	H24. 4. 1～H27. 3. 31	H26年度中	H24. 4. 1～H27. 3. 31
乳がん検診一次検査（乳房X線撮影）医療機関	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	H24. 4. 1～H27. 3. 31	H26年度中	H24. 4. 1～H27. 3. 31
子宮がん検診精密検査	H24. 4. 1～H27. 3. 31	H26年度中	H24. 4. 1～H27. 3. 31
肺がん検診精密検査	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	H23. 4. 1～H26. 3. 31
乳がん検診精密検査	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	H23. 4. 1～H26. 3. 31
大腸がん検診精密検査（注腸X線）	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	H23. 4. 1～H26. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	H22. 4. 1～H25. 3. 31	H24年度中	H22. 4. 1～H25. 3. 31

※平成24年度中に「肝臓がん検診精密検査登録医療機関」の更新手続きを行います。昨年度の委員会において、超音波検査機器のデジタル化等に伴い、「肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準」の一部改正案が承認され、平成25年4月より適用されることとなりました。

なお、平成25年度登録より適用する基準は94頁に掲載しておりますので、ご高覧の上、ご留意下さい。

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上あること。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 6回/年 西部 2回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 22回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコープに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつBF下細胞診が可能であること。
- 3 精検のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること。
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回参加は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん検診従事者講習会	東部 1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 5回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適切な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できるか又はS状結腸内視鏡検査及び注腸エックス線検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点

鳥取県大腸がん検診注腸エックス線検査医療機関登録基準

- 1 次の基準にあうエックス線撮影装置で注腸エックス線検査が実施できること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 2 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 3 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 8 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準（平成25年度登録より適用）

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、少なくとも血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン（AFP）検査及びHCV-RNA検査（アンプリコア定性法）が実施できること。
- 4 次の基準にあう超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師が対応できること。
 - (1) 走査方式は電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンターマルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。
 - (5) 携帯型超音波装置は除く※。

※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等の受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数	
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点	(鳥根県開催も対象)
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点	
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点	
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点	
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点	
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点	
肝・胆・膵研究会	西部 6回/年	2点	
消化器超音波研究会	西部 4回/年	2点	
西部腹部超音波研究会	西部 2回/年	2点	
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点	

（注）上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

【主な改正案内容】

機器のデジタル化に伴い、プローブ128素子以上の高密度多素子プローブの項目を削除。また、9インチの観察用モニターは既に市場にないことから、12インチ以上と改正（携帯型超音波装置は除く）。ただし、一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。

鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録基準

- 1 登録資格は医師とし、専攻科は問わない。
- 2 乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に12点以上取得していること。ただし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見がん症例検討会には、必ず1回は出席していること。
- 3 新規登録の場合は、次のいずれかを受講すること。
 - (1) 原則として健対協の主催する一次検診医講習会を受講すること。
 なお、この講習会は、乳がん及び乳がん検診についての一般的知識、特に視診及び触診に重点をおいた診断法、触診の実技の習得を目的とし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会に引き続いて年1回開催するものである。
 - (2) (1)の講習会を受ける事ができなかった場合は、部会等の長が指名した部会及び委員会の医師系委員から(1)に準じた指導を受けること。この場合、指導した医師が、一次検診医として十分能力が得られたと認定した時点をもって終了する。
- 4 上記2、3にかかわらず、次に該当する場合は、登録できものとする。
 - (1) 日本乳癌学会認定の専門医、認定医
 - (2) 日本乳癌学会又は日本乳癌検診学会の役員

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

あ と が き

検診事業の運営上、重要な一面を占める精度管理については、鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会の各部会と鳥取県健康対策協議会の各検診対策専門委員会との合同会議で検討を重ね、会長の言葉にもあるように一層の向上に努めております。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第18報です。

この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覽いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。

ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。

編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。

発刊に際し、県医師会長岡本公男先生に御指導を戴きました。また、県医師会事務局の岩垣陽子さん、田中貴裕さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。

皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理事 吉 中 正 人